

もったいない・おかげさま・ほどほどに、が環境と人間を育てる

M・O・H通信

M・O・H communication

34号
2012
Winter

M・O・H通信
34号
— 特集・温故知新「人・くらし・宝」

2012 Winter

特集：温故知新
「人・くらし・宝」



野田版画工房
野田拓真 藍子

野田版画工房は唐紙の伝統技法を応用し、独自の表現で紙を制作しています。襖、屏風、パネルなどの仕立てや壁への施工なども手掛けています。

2011年5月、東近江市の旧永源寺町に住居兼工房を構え、10月には工房開き展を開催しました。工房には襖や屏風を設えており、予約にて見学可能です。

<http://nodahanga.exblog.jp/>



「M・O・H」のマーク＝牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします。

★M・O・H通信の役割★

持続可能で豊かな循環型社会を築く社会人の意識を向上するためMOH通信は情報を発信し交流を続けます

- | | | | | |
|---|---|--------|-----------|----------------------------|
| M | → | もったいない | 循環 | 他の生命を奪って得たものを使わせて頂く |
| O | → | おかげさま | 共生 | 人は一人では生きられない、環境によって生かされている |
| H | → | ほどほどに | 抑制 | 欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために |

contents

目次

特集「温故知新」—人・くらし・宝

M・O・Hレポート-1 専業主婦の夢の庭から農業の未来へ
豊かな自然が五感を癒す大人のための緑の別天地 大澤 恵理子 …… 5

M・O・H鼎談
**住民の力で育て上げた観光都市長浜に学ぶ
自立型経済の未来像** 岡田 辰男 & 三山 元暎 & 森 建司 …… 14

滋賀の取組み

M・O・Hインタビュー

新生・美の滋賀 嘉田 由紀子 …… 25

寄稿《美の滋賀-1》—近江の仏教美術—
守り伝える美 井上 ひろ美 …… 27

寄稿《美の滋賀-2》—近江の仏教美術—
滋賀と近現代美術 高梨 純次 …… 31

寄稿《美の滋賀-3》—近江の仏教美術—
アール・ブリュット 藤本 えりか …… 34

寄稿 さらなる滋賀ファンの創造を！
「滋賀・びわ湖ブランド」 南里 明日香 …… 38

寄稿 琵琶湖の水草—有効利用最前線
有効利用しないともったいない！ 田井中 文彦 …… 41

寄稿

辯才天様をお迎えして 杓水 節夫 …… 45

M・O・Hレポート-2 「よばれやんせ湖北 生産者・消費者交流会」顛末記
よばれやんか？ 湖北のうまいもん 小西 光代 …… 49

寄稿 麻生里山だより
くつきの森 山のめぐみフォーラム2011開催 …… 53

寄稿 移り住むなら滋賀県・湖北
田舎暮らしフェスタ2011 …… 55

漫画

山暮らし子育て日記 オノ ミユキ …… 57

心温まる物語

身の小ささを知っていました 今関 信子 …… 59

商家の家訓の話 第19回

番外編Ⅱ：大震災に寄せて—海外移住者の真情 末永 國紀 …… 61

里のお話

鮎味噌 三山 元暎 ……63

本の紹介 …… 64

インターナショナルメッセージ独逸

薪の燃える暖炉と湯たんぼ 原 修子 ……65

講演日記 …… 66

M・O・Hニュース …… 67

イベント紹介 …… 68

通信概要 …… 69

読者の声 …… 70

表紙写真

辻村耕司

「湖北の光」
賤ヶ岳山頂から見る伊吹山。浅井氏の繁栄もこの穀倉地帯があってこそと思うと感慨深い。

温故知新

■ 温故知新 — 「人・暮らし・宝」

「薪灯の神事」

長浜市木之本町杉野中村のオコナイ。
夜を徹して行われ、早朝、背中に担が
れて大きな餅が薬師堂に運ばれる。

最近、私は「自己矛盾」と言う厄介者が、結局はこの世のすべてを支配していることに、何か心に引っかかるものを感じる。私は哲学者でも研究者でもないで、幼稚なことしか言えないが、この世に存在するものすべてに「自己矛盾」が有って、時間の経過とともにその矛盾が成長をしつづけ、やがてはその本体を否定し根本的に変えてしまう。これは弁証法として認められている真理なのだ。従って当たり前なことなのだろうが、早いか遅いかの差は有るにしても、いずれこの世の現実がすべて否定されてしまふということ、今を生き

ている私にとつても余りありがたい事ではない。

個人のことはさておくとして、大きく言えば地球の存在も、宇宙も「自己矛盾」で変化を続けていることだろう。人間の手が届かないところは別だが、

人間社会の様々なシステムも、その時の状況の中で必然的に生まれた確固たる主体であつても、それがすべて時間の経過とともに「自己矛盾」によって潰されていく。

私たちはその姿を毎日マスコミで見

特に近代の科学技術の進歩とその評価の転変が興味深い。人類にとって絶対に役立つはずの発明や研究が、「自己矛盾」によって逆の結果になつてしまう。

原発のように未来の人類の存在を根底から覆してしまふような、最悪の凶器

現代の自己矛盾が生み出す新社会

森 建司

ている。正に人間の演じる悲喜劇の連続である。

現在の細かな事象も、変わり続けていくことだろう。社会の有りようも仕組みも、営々と築き上げてきた当事者にとつては信じ難い変化が必ず起こる。

と成りうるものが、貴重なエネルギー源として大歓迎されていたのは、つい昨日のことである。日常生活に密着している家電製品、情報機器、いずれロボットなども、この自己矛盾によって排斥される時も来る筈だ。

そういう観点から見ていくと、今も現代社会の中で成長を続けている「自己矛盾」は、将来どんな新しい社会を生み出していくのだろうか。その未来社会の一部は自分なりに感じている「自己矛盾」を突き詰めることで、多少は予見できるような気がするのだが。

豊かな自然が五感を癒す 大人のための緑の別天地



ローザンベリー多和田

大澤 恵理子

株式会社メリーデイズ 代表取締役

専業主婦の夢の庭から農業の未来へ

2011年9月にグランドオープンしたローザンベリー多和田は、自然の中でゆったり一日を過ごせる新たな体験型観光農園として注目を集めています。米原市多和田の山懐に抱かれた広大な敷地にガーデンと農園を中心として、レストランやカフェ、ショップ、体験工房、炭焼きの窯など多彩な施設が展開し、山の斜面でのんびり草を食む羊たちの姿に心が和みます。8年の歳月をかけて荒れ地を緑化し農園を開いた大澤恵理子さんは元専業主婦。ローザンベリー多和田を訪ねて、大澤さんが多和田の地に託した思いをうかがいました。

■ローザンベリー多和田／米原市多和田

■2011年11月



ガーデンを彩る花たち



ローザンベリーはバラとブルーベリーを組み合わせた造語。「桜花窯」には恵理子社長の大好きな桜が植えられた。初期に作った思い出深い窯。

湖北の風景にとけこむ
美しいガーデンと農園

一般的に、観光農園といえれば家族連れを対象にした施設が多いが、ローザンベリー多和田を運営する株式会社メリーデイズ代表の大澤恵理子さんは「大人が遊べる場としてのローザンベリー」をコンセプトにあげる。「子どものお付き合いで来園するのではなく、親が行きたい、だから子どもを引っばってでも行こうと思ってもらえる施設にしたいですね」

その言葉の通り、イギリスのアンティーク煉瓦の塀を巡らせたガーデンはしつとりと落ち着いた佇まいをみせている。繊細な山野草とバラが自然な趣で花を咲かせ、頭上には木々がのびやかに枝を伸ばす。大きな池を望む緑陰がなんとも心地いい。植栽は大澤さんが思い描いてきた庭のイメージをオリジナルで形にしていきたいという。

「イギリスの庭がどんなにすてきでも、湖北にそのまま持ってきて合うはずがありません。多和田の土地と湖北の風景に合う庭を考えました」



ここが、滋賀県?と驚く風景

答えだった。
大澤さんから返ってきたのは意外な
「挫折していたと思います」
から計画的にやろうとしていたら、絶対に
画があったわけではないんです。当初
「初めからこんな風にしようという計
まれたのだろうか。」
要したという壮大な計画はどこから生
グランドオープンまで準備に8年を

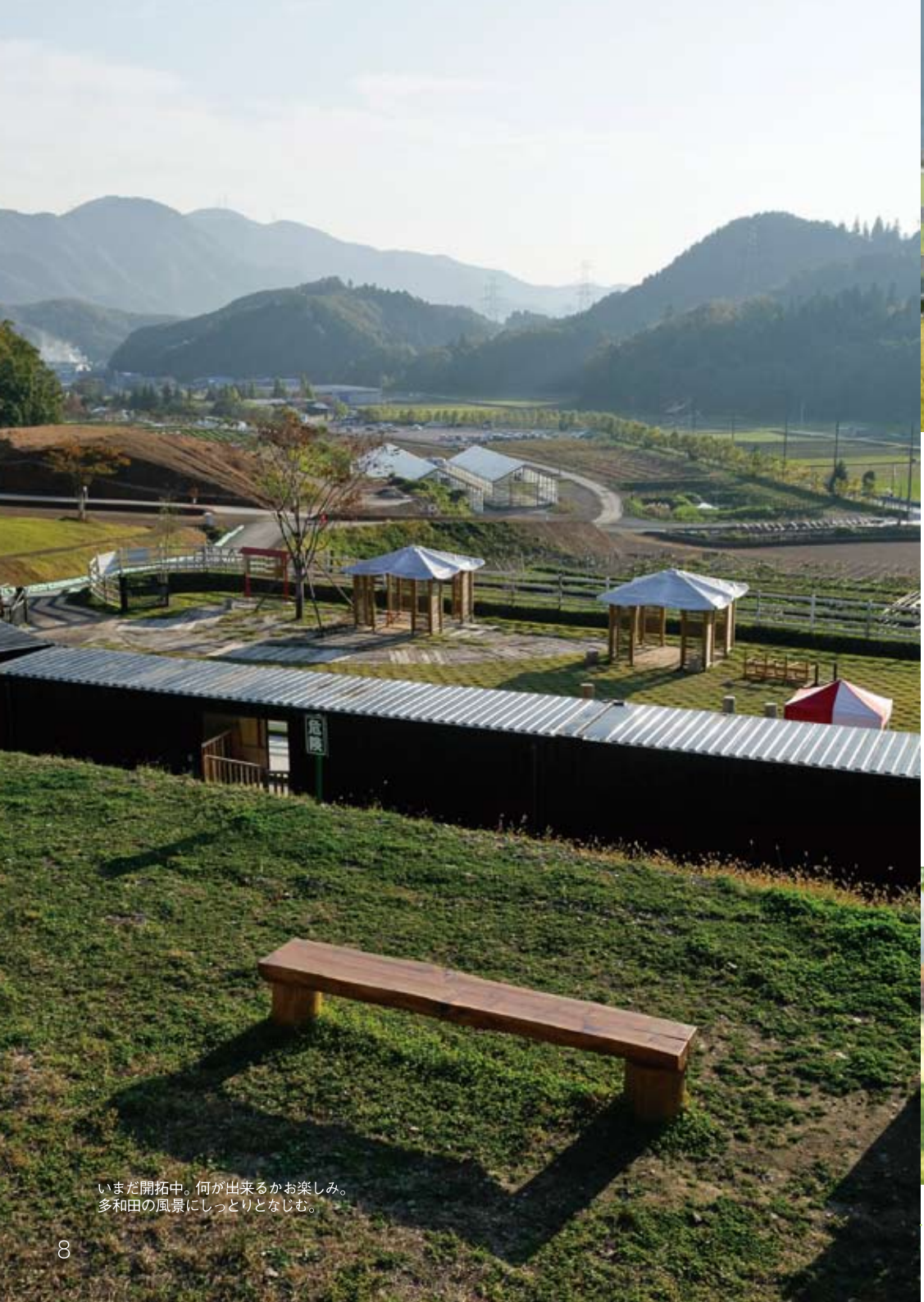

自分の庭を夢みた専業主婦が
巡りあった運命の土地

湖北の積雪や厳しい寒さに耐えられ、
暑さに弱くない植物を選ぶが、大切に
育てても消えてしまうものもある。土
地に合わないものは自然に淘汰され、
さまざまな植物が調和して、ここにし
かないガーデンができあがっていく。
「地味な花、山野草が好きなんです」
花の話になると、大澤さんはひととき
やわらかな笑顔を浮かべた。多忙な中
も、時間があれば自らガーデンの手入
れをしている。お客さんに声をかけられ
花について話すのも楽しみのひとつだ。

専業主婦として家事のかたわら、趣味
の針仕事やガーデニングを楽しみつつ、
大澤さんはいつか自分の庭を造ってみた
い、カフェがしたいと漠然と夢みていた。
人生が思いもかけなかった方向へと大き
く動き始めたのは、初めて多和田を訪
れた8年前。多和田で目にしたのは長年放
置された採掘場跡だった。荒れ放題の土
地は生い茂った雑木と雑草に覆われて、
元の地形さえも定かでない。
「でも、一面の雑草の中に大好きなヒマ
ラヤスギの太木と桜並木の名残をみつけ
て……この土地が一目で気に入りました」
人が手をかければ、きっと本来の自然
の美しい姿が取り戻せると直感した。自
分のための庭ではなく、この土地を緑化
してみんなが憩える場をつくりたい。お
ぼろげだった夢には、はっきりとした輪郭
が見えてきた。



大好きなバラと一緒に



いまだ開拓中。何ができるかお楽しみ。
多和田の風景にしっかりとなじむ。





5



6

- ① 羊と山羊の食事スペース。時間になるとベルの音でいっせいに集合。脱走する子ども
- ② めえ〜メリーさんの羊♪とぼくちゃん
- ③ 羊毛クラフト体験もできます
- ④ かわいい羊の作品
- ⑤ おしゃれなショップで買い物できます
- ⑥ イギリス製の園芸用具が豊富
- ⑦ 採れたてのお野菜を販売
- ⑧ 野菜畑ですくすく成長する野菜たち



7



8



手探りで始めた農園が
観光農園にたどりつくまで

夢を実現しようと決意したものの、予想を上回る難題に次々に直面した。根深い雑草を根絶するために表土をはがして土を入れる大工事から始めて、来る日も来る日も石ころを一つ一つ手で拾う作業の毎日。樹形の乱れた木の伐採、土壌改良、植栽……さまざまな分野のスタッフの協力を得て「開拓」の厳しい作業が続いた。とても一気に整備することはできず、まずはブルーベリー園を先行開園させた。

「当初はブルーベリー摘み取り体験のお客様はとも少なかったのですが、スタッフの奥さんが余った実でジャムを作った販売しました。それが大変好評で、



①カフェのメニュー ②レストランではバイキング形式で季節の料理を楽しんで ③手作りブルーベリージャムが看板商品。ほんのりとした甘さが美味しい ④カフェ店内 ⑤ショップでは、お土産もあります

ブルーベリー以外の色々なジャムも作れるようになったのです。ジャムを買って来てくださるお客様が増え、『ここでコーヒーを飲みたい』『食事もできたらいいの』という声がたくさん寄せられました。お客様とお話する中で、安全な食“を求めておられる方がとても多いと感じました。そういうお客様に喜んでもらえる安全な野菜を作って、体にも良いレストランで食事をしていただき、ゆつくりとコーヒーを飲みながら過ごしてもらいたい。こんな風にとくさんの方のお声が夢を広げ、今のようなローザンベリー多和田が出来上がったんですよ」

特に好評なのがバイキングレストランのランチだ。料理研究家・関口絢子さんと栄養士が手がけるメニューがず

らりと並ぶ。旬の野菜をたっぷり使い、肉や魚も盛りこんで栄養のバランスに配慮。バラエティー豊かで彩りの美しい野菜料理を目当てに、平日も多くの人が多和田を訪れる。

「たとえば、ニンジン、ラベというサラダは、さまざまな食材とスパイスを入れたドレッシングでもとても人気があります。料理研究家の方に教えていただいたのですが、ニンジンの切り方ひとつでドレッシングの味のしみこみ具合がまったく違ってくるんですよ。野菜料理といっても、家庭では作れないような工夫を凝らしています」

循環型農業から後継者問題
農業の未来を開くために

お客さんの要望を受けて食の安全に向き合った大澤さんは、さらに農業のあり方と未来に目を向けることになる。ローザンベリーでは動物の糞尿やレストランの食べ残しを堆肥にする循環型農業に取り組んでいる。また、形の悪い野菜は食材として生かすために自社

工房でパウダーに加工している。そして、仕事を通して農業を取り巻く厳しい環境を実感すればするほど、農家の高齢化と後継者問題が気がかりになってくる。

「若い人に『たいへんなことかもしれない』と聞いて欲しい。若い人が楽しめるような農業ができたらいいなと考えています。ローザンベリー多和田が農業の楽しさをみつけるチャンスになればと願っています」

継続は力なり 大澤恵理子

●おおさわ えりこ 長年、専業主婦として家事と育児、趣味のガーデニングを楽しむ。八ヶ岳にてカーテナー・ポール・スミサー氏のもとで学んだ後、2003年米原市多和田の地で長年の夢であった庭造りを始める。人と自然の関係の深さを実感し、自然の癒しと農の尊さをより多くの人に伝えることを目指して、2011年体験型観光農園ローザンベリー多和田を開園。



春に向けての準備にかかります

●ローザンベリー多和田
〒521-0081

米原市多和田605-10

TEL 0749-54-2333

〔開園期間〕農園 3月〜12月、ガーデン 4月〜12月、レストラン・カフェ・各ショップは1〜2月も営業

〔営業時間〕4月〜10月は10時〜17時、11月〜3月は10時〜16時、レストランは11時〜15時
〔定休日〕毎週火曜日（祝日の場合は営業）・年末年始

〔入園料〕（農園のみ）大人（中学生以上）500円、小人（4歳以上）300円、3歳以下は無料（農園とガーデン）大人1000円、

小人800円、3歳以下無料
レストラン・カフェ・ガーデン ツールショップのみの利用は入園料不要、駐車場は無料
<http://www.fb-tawada.com/>



ローザンベリーのお花をお宅にも

私の多和田物語

- 著者／大澤恵理子
- 発行／パレード
- 価格／1,429円+税
- 内容／お客様と同じ夢を見て。大好きなものに囲まれて仕事ができる。私は世界で一番幸せ。専業主婦が趣味のガーデニングを体験型観光農園ローザンベリー多和田に展開。



〈温故知新「人・くらし・宝過」—②〉

住民の力で育て上げた観光都市 長浜に学ぶ自立型経済の未来像



岡田 辰男

岡田正運堂店主



三山 元暎

元滋賀県山東町長



森 建司

循環型社会システム研究所 代表

大企業に頼らず、「博物館都市構想」のキャッチフレーズのもとに行政と住民が結集し、自らの力で町おこしに成功した長浜。いま各地で自立型地域振興、自立型経済をつくろうという気運が高まってきている現状を踏まえ、長浜がいかにして観光都市として再生されたのかを改めて振り返ることで、これからの地域活性化の方策を探りたいと思います。

今回は、当時、長浜市役所で博物館都市構想を打ち出した三山元暎さんと、商店街を長浜御坊表参道として甦らせるために尽力された岡田辰男さんにお話をうかがいました。

■北びわこホテル グラツィエ スイートルーム

■2011年11月4日

博物館都市構想から始動した 商店街再生プロジェクト

森 長浜市の博物館都市構想ができたのは、三山さんが観光課におられたときですね？

三山 企画課にいたときに博物館都市構想の基となる総合計画が策定されま

した。「活力に満ちた風格のあるまち」を旨とすると取り組んだのですが、議会や市民のみなさんから「風格とはどういうまちづくりを言うのか」とたくさん質問を受けました。風格とか品格というの自分から言うものではなく、他人が評価するものではないかと。そんなことがあって、もう少し具体的な

イメージとして「博物館都市構想」を打ち出したのです。

森 博物館都市構想というのは誰が聞いてもわかりやすいですよ。

三山 いえ、当初は博物館都市構想でも分らないという人が結構あったんですよ。ちょうどその頃、市制施行40周年記念の事業として「長浜城」を再興しようと、市民ぐるみの募金運動が展開され、4億円を超える寄付金が集まり、昭和の長浜城ができました。豊公園でこの完成を祝うイベントを4月から5月にかけてのゴールデンウィークにあわせて開いたところ、50万人の方が訪れてくださり、大いににぎわったのですが、市街地の中には人が全然回らなかった……商店街のみなさんにぜひぶんお叱りを受けました。そんなこともあって、イベントの実質担当責任者であった私が、責任をとれと、閉幕直後の昭和58年5月15日付で、商工観光課の課長に任せられました。私にとって大きな転機でしたね。企画立案した博物館都市構想を自ら汗を流して実践する場を与えられたのです。



森 博物館都市構想の第一歩は、やっぱり黒壁だったんですか？

三山 違います。ただ古いものを大切に
するだけでなく、古いものをきちんと
評価した上で、それをどのように現代に
生かしていくか、古いものを活用してど
う新しく創造をしていくのが、博物館
都市構想の基本的な考え方なのです。



左から岡田氏、三山氏、森氏

その構想に最初に関わってくださった
のが、岡田さんの町内です。あの頃は
まだアーケードがあったんですかね？

岡田 表参道には、当時、長浜で一番古
い大きなアーケードがあったんです。そ
れを修理しなくてはいけなくなつて、役
員で相談しました。いろいろ考えた末に
「いっそアーケードをとってしまおう

やないか。お寺の山門を通りから見える
ようにしよう」ということになって。当
時は道ぎりぎりに建っていた家をセッ
トバックして、みなさんに石畳を歩いて
いただく、家の軒を深くして雨や雪
の日は軒先を通っていたかどうかと考
えました。商店街の名前も「表参道」に
変更することにしました。そうした発
想を商店街のみなさんに分かっていた
だくの、3人で4年かかりました。

お金はないし商店街にお客さんは来な
いのにと叱られることもたびたびあり
ましたね。それまでも、大きな構想
が出たことはあったんですよ。道の片
側に建物を寄せて7階建てにして、半
分は公園と駐車場にする。建物の上部
を賃貸にして、われわれは1階を店と
して使うというものでした。それだと
何十億円という金がいります。そんな
構想についていく人は一人もいません。
それで、私とマスヤデンキさんとカメ
カさんと3人で金のかからないやり方
を話し合いました。その結果、アーケ
ードをとって町並みを整備するという
発想が出てきたんです。

森 そういう高いビルよりは、いまの町並みの方がどれだけいいかわかりませんよね。

岡田 長浜の新構想に合ったことを計画できたんじゃないかと思っています。

森 三山さんが博物館都市構想をやってらっしゃった当時、うちの会社が浜松に営業所をつくりまして。それまで商売のことしか頭になかった私には、三山さんたちの構想は目からウロコでしたね。その頃、浜松のあるお客さんに「君の会社、長浜やったよね？長浜って博物館都市とちがうんか？」と尋ねられましたね。長浜の知名度に驚きました。人の心を一発で射止めるネーミングですね。三山さんたちの志があったからこそ、すばらしいネーミングができたのでしょう。

三山 わが国だけでなく、イギリスなど諸外国のまちづくりの先例に学んだり、市民みなさんの意見を聞いたりして構想をまとめ上げたのは事実です。けれども実際に、構想を実践してまちづくりを進めるのは、町の人のすごいエネルギーがないとできないことです。

岡田さんたちがやってくださったんですよ。おそらく官主導ではできなかったでしょうね。みなさんのおかげで、町並みが整備されて生まれ変わった長浜御坊表参道は建設省の「手づくり故郷賞」をいただきました。課員も毎日のように岡田さんの町内に出向き、黒子となってバックアップしましたが、われわれの知らないたいへんな御苦労がいろいろあったと思います。

何度も訪ねたくなる町へ 手づくりの馬酔木展

岡田 町並み整備が一段落して、私たちが次にやったのが「馬酔木起こし」です。ある方に言われたんです。「町並みがきれいになっただけでは、誰も一度は来ても二度は来ない。それよりも、蕾から咲くまで半年近く花がついている馬酔木という花が浅井の山にたくさん



あせびの鉢植えに汗を流すメンバー

生えてる。これを盆梅展のように、お寺を借りて並べたらどうや？そうしたらお客さんが表参道を通るはずや」と。私たちは馬酔木という名前を聞くの初めてでした。

森 私も大通寺の馬酔木展で初めて知りました。

岡田 馬酔木起こしをやりかけたんですが、木を積む自動車もない。そしたら、商工観光課長をしておられた三山さんが「表参道はいいことして

られる、協力しよう」と言ってくれただき。観光課をあげて協力していただきました。私たちは年寄りばかりで町内から山へ行くのは3人だけなのに、三山さんは商工観光課から若い人をつも4人くらい出してくれました。最後には商工会議所からも引っぱって高さ4、5メートルある木ですから本当に大仕事でした。三山さんと商工観光課に手伝っていただけなかったら、現在の馬酔木展はなかったと思います。

森 馬酔木起こしというのは、木を掘り起こして植木鉢に植えるということですか？

岡田 木を切って根っこだけ掘り起こして、鉢に植えました。

三山 市は盆梅展をやっています、ストックの鉢がたくさんあったんです。それを貸すというかたちで協力しました。

岡田 3年目ぐらいに新芽が出て、そこから花がちよろちよろ出てくる。それを4年目に初めて展示したんです。われわれの馬酔木だけでは恥ずかしいので、浅井町にいい盆栽を持っておられる方が何人かいらっちゃって、お願

いして貸していただきました。それから現在まで26年間お世話をさせていただいています。

森 続ければ続けるほど、奥が深くなっていきますね。それにしても、お世話されるのはたいへんでしょう。イベントとして1回やるのもたいへんですが、それを継続させていくのは強い意志がないとできないことですね。馬酔木の鉢は、持ち主がおられるのですか？

岡田 いえ、いません。最初は、カメカさんと私と朝日さんマサさんの4人で育てていました。今は私一人になってしまいました。

森 菊花展みたいに、みんなが持っているものを展示しているんじゃないんですか？

岡田 そうです。馬酔木展は馬酔木展実行委員会という、商店街とは別の名前でやりました。最終的に利益がでたら、商店街の組合に全部入れます。われわれは運営できるだけでいいんですから。

森 どういう収入があるんですか？

岡田 大通寺で馬酔木展をしたら大勢のお客さんが入ってくれました。大通

寺の拝観料から1000円いただいて、それで運営するわけです。年間120万円あれば、だいたい回りますね。しかし、近年客足も少なく、収入が少なくなり運営が厳しくなりました。そこで、私たちは馬酔木の鉢を仕入れてお客さんに販売することにしました。土曜日・日曜日はいつもお大通寺で花売りです。鉢を並べて声をかけることよりも、会場で陳列された馬酔木盆栽を眺めて寛いでいるお客さんとお話しをする。大通寺の由来、特に馬酔木の育て方をお話すると、みなさん婦りに買ってくださる。それでどうにか運営費をこしらえているんですよ。現在も盆栽鉢を売るときに全力を注いでいます。

森 盆梅展と同じように、リピーターが来る可能性はありますか？

三山 上手にフォローする知恵が必要です。ただ展示するだけじゃなしに、いまの岡田さんのように、対話することで、訪れた人は満足感を得、旅の楽しさが膨らみ、花を買おうかという気もおきる。ただ見せるだけの催事だったら、これほどの行事にはならなかったでしょうね。

岡田 お寺のお坊さんからも、いろんなアドバイスをいただきました。「小鉢を売るのにずらつと並べてもあかん。岡田さんは挿し木もしてるんやから、これは1年目、これは3年目、5年目、15年目というのを並べなさい。挿し木1年というところなんもの。これに花がつく。それが3年後にはこうなるんですと説明する」と。ああ、なるほどと思いました。お坊さんの言うようにしたら、やっぱりお客さんに買っていただけましたよ。

森 そのファンができますね。

岡田 そうです。馬酔木展には、西宮あたりから毎年、20回以上来てくださってる方もあるんですよ。

森 一見のお客さんだけを相手にする観光もありますが、今年も春になったから行くとか、もう一度行きたいと思ってもらえる、そういう絆ができてくるんですね。黒壁が始まったのはもつとずっと後ですか？

岡田 黒壁ができたのは、私たちのちようど1年後です。全国がドーナツツ現象で困ってるなかで、長浜の商店街

がやったことが本に出ましたので、表参道には北海道から九州まで全国から視察に来てくれました。

三山 あのような取組みは、もう二度とできませんよ。岡田さんたちの商店街は、尋常ではないですよ。アーケードがあったのを壊してセットバックして石畳にするために、半年くらい店を閉めてもらった。そんなこと、いまやれと言ってもついてくる人はいないですよ。よくぞやってくださった。そのときの役員さんのがんばりがなかったら、できていないですよ。

地域に根ざした町づくりに 地域やものへの愛情は不可欠

森 後継者問題はどうですか？ 大学を卒業して大手企業に就職して、結局、家業を継がないという問題がでてきていますよね。地方だけでなく、都会からもそうやって商店街が消えていくといえます。スーパードがあるから消費者には迷惑をかけてないというけれども、しかしそれでは地域の発展にならない。

事業をどう引き継ぐかというの、ひとつの問題ですが。

岡田 私も年だから、馬酔木展の跡継ぎを考えてるんですよ。なかなかない。なぜかという、馬酔木は枯れるんです。盆梅は昔から盆栽用がありまして、馬酔木の盆栽は20年ほど前に始まったばかりで、世話がむずかしいんです。私は3日に開けず馬酔木を見に行く。それだけの愛情を持たないと育てられないんですよ。

森 企業経営でも金儲けばかり考えてはいかんと思います。それよりもお客さんに喜んでいただける仕事というのを真剣に考えるべきです。お客さんを買って頂く対象とするのではなくて、お客さんからいただいたご要望にお応えして、お互いに喜びを得られるような仕事を考えないと。まさに、商店とお客さんとのつながりのようなところを大切にしていかなければいけない。一種の公益性みたいなことだけれども、しかし本場のボランティアだけではうまくいかないわけですし、そこがむずかしいところですね。所得があっても、



大通寺のあせび展会場にて

それで生活していくには馬酔木はむしろかしいかもしれません。

岡田 特に、馬酔木は年間を通じてではありませんのでね。花のない木を見せてもだめですから。

森 しかし、商売にはならないけれども、都市の魅力として馬酔木展が長浜のイメージアップに貢献しているのは事実だと思います。

岡田 もうたいへんやから馬酔木はやめる、市に引き取ってもらえないかというところ、それは困ると言われました。長浜では、盆梅と馬酔木と萩と牡丹の花は絶対やめてもらっては困ると。私が3年前に手術で入院したとき、商店街の人に順番に水やりをしてもらったんですが、27鉢も枯れてしまった。あのときは泣きました。

森 愛情ですねえ。

三山 まちづくりも一緒だと思います。
森 愛情といえは……いま長浜ではピワマスの養殖に取り組んでいます。ようやく長期間にわたっておいしいピワマスができてようになって、

試食会などを企画しています。こうした養殖にしても、ピワマスに対する愛情を本当に持った人がやらないとうまくいかないと思います。企業や大きな法人がビジネスとして手がけて、数年間やって全然うまくいかなかったら手をひいてしまうというのではだめわけですからね。ピワマスを愛情を持って育てる人がいる。そういうのが基本になると、地域密着型といっても産業は生まれませんようにね。

「足るを知る」で心豊かに ものを大切に生活へ転換

森 ひとつ日頃から不思議に感じているのは、消費者が安物買いに走ることです。あまり安いものばかり買わずに国産品を買わないといけないと言うと「そんな高いものを買ったら生活していかれへん」という発想があるんです。もっとものを大切にしないとダメですよ。たとえば浜仏壇にしても、うちの親父は商売が成功したら最後に仏壇を買うものだと言っていました。



選択できる楽しさを(三山氏)

だから、いよいよ飯が食えんようになってから最後に仏壇を売れと。仏壇を売ったらしばらくはやっていける、それくらい良いものを買うためにものすごくがんばって働いた。家にしても同じです。初代は家を建てて、二代目は庭を造る、三代目は道具を買う。三代かけて、そこその家になるといわれていたんですよ。昔は貧しい中で、そういうことをやってきたんです。いまは家も消耗品と一緒に、ハウスメーカーがつくると25年くらいで買い換えてもらわないと、次の生産ができないという。昔、高くても売れたのは、ものを大切に、それで職人さんが生活できたからだと思うんですよ。岡田さんのところは洋服屋さんでした

よね？ 洋服も親父の頃は、だいたい同じ洋服屋さん頼んでいて、息子もそこにお世話になるのが普通でした。よく知ってこれるから、仮縫いしなくても本当にびたっと合う。それだから一生大事に着たんでしょう。

岡田 仮縫いはいらんですよ、慣れてくるよ。

森 買い手と売り手の間に家族みたいな絆があつて、一生懸命つくってくれた洋服だから一生大事にしていかなあかんというように暮らしていました。いまは1万5000円くらいの背広だと「どうせ安かったから」とさっさと捨ててしまう。こうした風潮を直していくには、職人技術が評価される時代に戻さなくてはいけないと思います。いまは職人技術を覚えるにも覚えるところが少ない。私が思うには、消費者が考え方を変えなくてはいけない。経営学では消費者とか生産者といいます。消費者というものは消費ばかりするのではなくて、その人も働いている、あるいはその人の家族が働いているわけです。つまり生産者になって働いたお金を、消費者と

買い手と売り手に家族の絆を(森氏)



として使っている。自分が中国製品ばかり買っていたら、自分たちの仕事がなくなっていくわけです。消費者が国産あるいは地産地消で地元のものを買う。これは高いなと思っても「あの人がつくってくれたのはたんやな、それなら大事に使わせてもらおうか」と考える。そういう風に世の中の意識を変えるにはまず、消費者の意識を変えることかと、弊誌で取り組んでいこうと思っています。

岡田 東京で成功してるスーパーが4店舗以上に増やさないと、先日テレビで見ました。田舎の農家の方と契約していい商品を置いている。値段は安くない。それでもものすごく売れ



個性的な手作り商品を (岡田氏)

かとすすめられても、社長は4店舗で十分だと言っていました。

森 それは日本の経営の基本です。中小企業には近江商人の家訓のように、会社を大きくしないというのがあるんです。ある中堅企業の家訓にも店を大きくするな、食事は一汁一菜にとあるそうです。ところが、会社を大きくしなくてはいけないというのが、いまの経営学なんです。これは間違いですよ。
三山 本当の豊かさというのは、「足るを知る」を分かることじゃないかと思うんですよ。どんどん拡張して、なんでもイケイケではなくて「足るを知る」という気持ちで豊かさにつながっていくと最近つくづく思います。

地産品を商店街で買う 消費者意識を育てるために

森 弊誌では、金儲けから一歩離れて、しかも長続きする事業を取材しているかと思っっています。商店街やご商売の今後の可能性、展開はどうですか？

岡田 個性のあるものをお客さんに提供することですね。スーパーや百貨店ではできないもの……手作りのものとか、あそこに行ったらいいものがある、いいもの食べられるとか。お客さんに満足していただくというのが一番大事なんじゃないでしょうか。

森 商店でしか買わないとか、国産しか買わないとか、地域のを買うとか、そういう消費者を育ててくれないですね。すでに、そういう思いの人もいますよ。「よばれやんせ湖北」というイベントもあります。11月19日に長浜市湖北町の朝日漁業会館で10軒ぐらい出店して、ピワマスをはじめ自分で開発された商品をお出しただいて、それをみんなで頂くという催しです。これは消費者団体が中心にな

ってやってるわけです。消費者団体が地域を育てようとしている。「私たちが商店街を守らなかつたら、長浜がかんようになるやないの」と考える人たちがいてくれるんですよ。

岡田 自分が食べておいしいと思える味をこしらえないといかんと思うんですよ。私は総菜屋ひとつを目当てに出かけて行くことがあります。作った人目当てですよ。あのおかずを食べたら、他のおかずは食べられません。

森 私は鮒ずしが好きで、決まった人の鮒ずししか買わない。そうして生産者と消費者の間に絆ができるんですよ。それは大企業やスーパーには絶対できない。「よばれやんせ湖北」は参加者70名と小規模なんですけど、あちこちで開けるようにしていきたいと思っています。

作る人も食べる人も喜びを 感じられるイベントに

三山 確かに、いろんなことで輪が広がることも大切ですが、選択できるものを消費者に与えてくださるともっと

広がると思いますよ。たとえばメニューもひとつではなしに、何人かが違う作り方をするとか。それを選択できたら、うれしいというか、楽しい気持ちになります。サバのなれ鮓を作って売る店があることを最近知ったのですが、私が入っている店はすぐ売り切れてしまう。何店も同業がある中で私はそこが一番だと思っているんですが、それは私の感覚であって、違う味覚の人だったら他の店の方がおいしいということだってありえるんですね。選択肢がひとつしかなかったら、それ以上の広がりにはならないと思うんです。「よばれやんせ湖北」のようなイベントでも、できたらいくつかのメニューから選択できると広がりをみせる。そうして地域の地産につながってくるのではないかなと私は思います。

地域の地産にするときに、大切な「目」が2つあると思いますね。ひとつは「地元の目」。さきほど岡田さんがおっしゃったように、地元の人が食べておいしいものを紹介する一方で、「運う目」でそれを料理したり、新しいやり方も

同時に提案することも大切です。何年前に、米原市のリゾートホテルで琵琶湖の魚を味わう食事会がありました。コック長が腕を振るったコース料理をいただいたのですが、あれは目からウロコでした。いままで食べた湖魚の味とは全然違う。洗練されて実においしかった。そういう料理人を呼び込むといい。和食だけでなしに洋食を出して、おもしろいものが生れてくるんじゃないかという気がします。それと、ポランテアでイベントをするのももちろんすばらしいことですが、どこかでマーケットにのせるような仕掛けが必要ではないかと思います。一回か二回ならいいけれども、マーケットにのせられるような値段設定をしないと、地域の経済として回っていきませんよ。

森 私たちのイベントの話になって恐縮ですが、高いものだけけど地元を愛する気持ちで満足できる、そういう人々を育てることで地域おこしができないかと思っています。そういうお

仕事を一生かけてやってこられた岡田さんと三山さんのような方に聞いていただきたくて。商店街さんのご協力をいただきながら、こういう企画を継続的な事業として長浜で進められないかと考えています。

三山 そういう意味では、この頃話題のB級グルメ。みんなを参加させて、投票で一位を決めていく方式はこれから人気を集めるのではないですかね。自慢の味を出すだけではなしに、誰かに正當に評価してもらえないかどうかと組み合わせると、おもしろいんじゃないかと思いますよ。作る人にも食べる人にも喜んでもらえるような仕組みを考えると、より楽しいものになるでしょうね。「M・O・日通信」や「長浜みくな」があるということが長浜を豊かにする。食とか、ものとかありますけどね、そこに縦糸と横糸があってはじめて豊かな文化が育つわけですから。そういう情報発信はものすごく大切なことだと思います。

森 今日は貴重なお話をありがとうございました。



花も嵐も乗り越えて、これが我らの生きる道

心を尽くして

岡田辰男

●おかだ たつお 昭和三十二年生まれ。北郷尋常高等小學校卒業。昭和十八年、国鉄入社。昭和三十年に長浜に帰り、昭和三十八年に岡田正運堂を継ぐ。創業107年の洋服屋の三代目。昭和60年、大通寺において初めての馬酔木展を企画・開催する。現在まで26年間にわたり馬酔木展の運営にたずさわり、そのための馬酔木栽培に取り組む。今では馬酔木展は長浜の季節の風物詩となっている。

美しい
人・まち暮らし

三山元暎

●みやま もとあき 昭和三十五年生まれ。長浜市役所入庁後、企画課長補佐、商工観光課長、生涯学習課長、総務部理事、経

済部長を歴任。昭和58年に長浜市のまちづくりのキーワード「博物館都市構想」を打ち出し、約10年間にわたって観光行政に従事する。平成7年から同年まで、滋賀県山東町の町長を務める。

勇氣凛々

いの壁を打ち破れ

森建司

●もりけんじ 1936年生まれ。滋賀県立長浜北高校卒業。新江州(株)取締役会長。滋賀経済同友会特別幹事、滋賀経済産業協会相談役など。〈著書〉『吃音はなわる』遊タイム出版、『循環型社会入門』新風舎、『中小企業にしかできない持続可能な社会の企業経営』サンライズ出版。

嘉田 由紀子
滋賀県知事



新生・美の滋賀

風土と人が生み出す美しさを一堂に

滋賀県は国宝、指定文化財保有率が4位、幸せ指数は11位で美しさを大切にす
る県民性が特徴的です。美しさの中には人の暮らしや自然や文化の豊かさ、創造
力が含まれます。今、滋賀県は“美”に取り組んでいます。私たちの身の回りにあ
る、さりげない美しさを、あなたも発見してください。

- 滋賀県庁知事室
- 2011年11月30日
- 聞き手／辻村 琴美

自然と暮らしの中に美を発見
棚田やカバタに「用の美」をみる

これからの滋賀県を考えるキーワードとして「美の滋賀」があります。「美」は美術・芸術作品であったり、自然や暮らしの中にある美しさであり、安らぎや不思議さを引き出すもの、人と人をつなぐものです。

人の手が加わった自然、里山や農村の風景が私は特に好きなのですが、棚田の畦道や苔むした石積みの水路、洗い場を改めて眺めてみると、そこに「用の美」の発見があります。暮らしの中にある自然には、合理性から生まれた形があるのです。たとえば棚田を巡る水路。単に水を回しているのではなく、冷たい水を温かくして少しでもおいしい米が育つようにとの経験知からつくられています。そしてドジョウやタニシ、赤トンボが人の手の加わった自然空間である水路に棲みつき、人に寄り添って生きています。家の中に湧き水をためる「カバタ」も、高島市の針江では一軒一軒形が違ってきます。そうした

自然の中の暮らしにおける「用の美」は本当にすばらしいと思います。

「場所への愛」の視点で みえてくる滋賀の美しさ

柳田国男は『豆の葉と太陽』という本の中で、東北の畑の端にきれいに咲いたケイトウの花について触れ、東北の人々は自分たちの生活を美しくするために花を植えていることを分析的に述べています。この本を読むと、滋賀には「美」といえるものがたくさんあることに気づきます。

また、地理学者のオギユスタン・ベルクが提示した「トポフィリア(場所への愛)」という概念に照らすと、滋賀にある「場所の美しさ」がみえてきます。滋賀には神様や仏様がおられますし、神社がありお寺があります。そして全体として安らぎと美しさを醸しだしています。

こうした地域につながる美には、滋賀という場所を愛した人たちの作品も含まれます。小倉遊亀さんが生まれ育った打出浜に立つと、あの丸みを帯びた

線はこの原風景から生まれたのだと実感しますし、野口謙蔵さんは作品に蒲生野の風土をびっしり描きこんでいます。また、志村ふくみさんと紬織りの出会いは、野洲の民家で手づくりされた紬の帯だったと聞いています。

人と人をつなぐアートの方で 「美の滋賀」を発信

もうひとつ、滋賀の風土が生み出したものというアート・ブリュットがあります。近江学園を訪ねてアート・ブリュットの作品をみたとき、まさに魂を揺さぶられる体験をしました。人間の持つている本質的な「何かを伝えた」という思いを、それぞれの内面世界から湧きあがってくる独自の手法によって表しているのがアート・ブリュットです。決してどこかで教えられるものではない、誰かにみせようというものでもない、お金にしようとか褒められようというものでもない。そのため、個性の発露がより際立っているのです。美しいものには、地域を元気にする

力があります。

いままでばらばらで見られ、語られてきた自然や暮らしの中の美、神や仏の美、小倉遊亀さんをはじめとする滋賀の地を愛した創造者たちの作品を結びつけ、さらにアート・ブリュットの作家たちに美の仲間になってもらうことで新生する滋賀をみていただきたい。そして、瀬田の文化ゾーンを「美の滋賀」の発信拠点にするための取組みを進めていければと考えています。

まつすぐに、しなやかに 嘉田由紀子

●かだゆきこ 1950年、埼玉県生まれ。アメリカ・ウイスコンシン大学大学院修士課程、京都大学大学院農学研究所後期課程修了。農学博士。琵琶湖研究所主任研究員、琵琶湖博物館総括学芸員、京都精華大学人文学部教授を経て、2006年7月より滋賀県知事に就任。現在二期目。趣味はカラオケ、孫と過ごすこと。特技は手打ちうどん、地図が読める。座右の銘は「まつすぐに、しなやかに」

寄稿《美の滋賀-1》

守り伝える美

—近江の仏教美術 海を渡る—

井上 ひろ美

滋賀県立琵琶湖文化館 学芸員

わが国の人々は、身近な草木や岩、動物などすべてのものに対して畏敬の念を抱き、信仰してきました。こうした信仰は次第に具体的な神や仏を対象とするものへと変化、とくに6世紀にわが国に伝来した仏教は、人々の信仰に大きな影響を与えています。仏教が定着していく中、奈良時代になると実は八百万の神々は仏の仮の姿であるという思想（本地垂迹説）があらわれました。これ以後、神と仏は一体のものとして存在してきましたが、明治時代になると政府の手で神仏分離が行われました。

《進取と融合で培われた風土》

近江は一時的に都が営まれることもありましたが、長きにわたり人的・物資的にも都を間近で支えてきた重要な土地でした。また、交通の要衝でもあったため、最新のさまざまな情報や文化が流入しやすい環境にありました。仏教は大陸の先進文化としてわが国で受容、発展しましたが、とくに最澄によって開かれた比叡山は日本仏教の中心地となっており、ここから円珍、法然、親鸞、日蓮など主要な宗派の開祖

たちが単立つていきました。

こうした環境にあった滋賀県は、南都六宗、天台宗、真言宗、浄土宗、浄土真宗、禅宗などの各宗派が成立するたびに、敏感にその影響を受けてきました。時代が変わって仏教文化に新たな息吹が加わった時、これを積極的に受容し、古いものを淘汰することなく、うまく融合させて現代に伝えてきたのが滋賀の風土だといえるでしょう。こうした姿勢があったからこそ滋賀には各時代、各宗派の文化財が質・量ともに豊かに残っているのであり、京都や奈良につぐ文化財保有県であることの所以なのです。また、京都や奈良では大寺院を中心に国宝や重要文化財が伝来していますが、滋賀県では県内全域に広く分布しているという独自の様相を呈しています。

《文化財の宝庫》

金、銀、琉璃で作られた崇福寺塔心礎納置品（8世紀）、国宝、近江神宮、金銀に輝く花びらを盛る器である華籠（12〜13世紀）、国宝、神照寺）などは、煌びやかな輝きをもっています。わが国でもっとも美しい仏像だといわれ、



国宝 木造如意輪観音半跏像(本尊安置)像内
納入品 二軀 飛鳥~奈良時代 石山寺所蔵



国宝 崇福寺塔心礎納置品 一括 奈良時代 近江神宮所蔵



国宝 金銅経箱 叡山横川如法堂埋納
一合 平安時代 延暦寺所蔵

やわらかな微笑みをたたえる十一面観音立像(9世紀、国宝、向源寺)は、深淵な美しさをともなっています。現在も厳封されており容易にその姿をみる事ができない五部心観(中国唐時代、国宝、圓城寺)は、密教の根本理念をあらわす両界曼荼羅のうち金剛界の諸尊を描いた中国請来の卷子ですが、厳かで密やかな美しさを見ることが出来ます。わが国でもっとも古い多宝塔である石山寺多宝塔(鎌倉時代1194年、国宝、石山寺)は清々しい美しさを放っています。また、六道絵(13世紀、国宝、聖乗来迎寺)は、地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人間・天の六道の無常と輪廻の様子を描いたものですが、これは見る者に畏怖の念を抱かせるだけでなく、極楽往生への思いをつのらせることで自らの内なる美しさを喚起していくのです。これらは滋賀県に伝来する代表的な文化財ではありますが、ほんの一部にすぎません。

《海外に発信!》

ところで、このような滋賀県の文化財は、近年とくに注目を集めるように



重要文化財 木造地藏菩薩立像
一躯 平安時代 東南寺所蔵



国宝 金銀鍍透彫華籠 一枚 平安時代 神照寺所蔵



重要文化財 紺紙金銀交書法華經卷第五
一卷 平安時代 延暦寺所蔵

なつてきました。平成22年には県立琵琶湖文化館の寄託品を中心に、九州国立博物館において「湖の国の名宝―最澄がつないだ近江と大宰府―」という展覧会が開催され、84,322人の入場者がありました。滋賀県の文化財が国立博物館でまとめて公開されたのは初めてのことであり、「滋賀県らしさ」を際だたせるために滋賀の風景写真を盛り込んだポスターや図録は、多くの方に感謝の声をもって迎え入れられました。また、この秋にはMIHO MUSEUM、県立近代美術館、大津市歴史博物館で「神仏います近江展」が開催されており、これも好評を博しています。

こうした関心はとどまるところを知らず、ついに今年の年末、滋賀県の仏教美術は海を渡ります。

「日本 仏教美術―琵琶湖周辺の仏教信仰―」と題して、韓国の国立中央博物館（ソウル市）で展覧会が開催されることになりました。これは、文化庁が国際交流を目的に毎年行っている海外展として開催されるもので、初めて地域を限定したものとなります。主催は文化庁・滋賀県・九州国立博物館・



重要文化財 千手観音二十八部衆像
一幅 鎌倉時代 大清寺所蔵



重要文化財 如意輪観音像
一幅 鎌倉時代 法蔵寺所蔵



重要文化財 不動明王二童子像
一幅 鎌倉時代 成菩提院所蔵



国宝
六道絵のうち 人道生老病死四苦相図
一幅 鎌倉時代 聖衆來迎寺所蔵

開物成務
井上ひろ美

●いのうえ ひろみ 滋賀県出身。平成17年より滋賀県立琵琶湖文化館に学芸員として勤務。

〈著書〉「永源寺町史 永源寺編」(共著)、「史料絵絹から画紙へ」(岩野家所蔵近代日本画家・学者等の書簡集) (共著) など

大韓民国国立中央博物館 (国際航空運送は、日本航空の提供) となり、琵琶湖文化館の寄託品を中心とする滋賀県を代表する文化財およそ60件が、日本を代表する仏教美術として公開される予定です。

公開期間は、平成23年12月20日(火)から平成24年2月19日(日)までとなります。月曜日休館、年末年始は1月1日をのぞいて閉館していただきますので、滋賀県の文化財が海外でまともまつて初披露される千載一遇のこの機会、「この歴史的場面に立ち会いたい」という方は、ちよつと遠いですが、ぜひ韓国まで足をお運びいただければと思います。

寄稿《美の滋賀-2》

滋賀と近現代美術

高梨 純次

滋賀県立近代美術館 学芸課長

「現代美術」という言葉が、滋賀県の中で飛び交ったのは、今から三十年ほど前のことではなかったか。ちょうど、筆者も所属していた県立美術館開設準備室という教育委員会文化部の一機関で、大枚の予算を使つて、難解な作品を収集しているらしい、という話題が、新聞などで取り上げられていた頃であつた。二十世紀後半のまさしくヘゲモニー国家であつたアメリカが、美術の世界でも覇権を獲得しようとして続けていたこの時期、壮大な抽象表現主義やネオ・ダダ、そしてポップアートなど、多様な才能による多様な表現が、世界の美術界を席卷し、極論をするならば、世界美術の主導権はヨーロッパからアメリカに移行した感があつた。やがて開館を予定していた滋賀県立近代美術館は、この方面の作品を積極的に収集し、新しい「現代美術」の古典作品を体系的に収集して展示・公開。次代をになう秘められた才能に提供し、世界の美術界と滋賀の斯界を繋ぐ役割を果たそうとしていた。しかし、

「現代美術」はまさに「」つきで筆記されるような、難解で特殊な造形、あるいは思考回路という風に受け取られた感があつた。

《埋没していった現代美術》

しかし、滋賀県立近代美術館が開館し、壮大な作品が展示・公開されると、その造形に新しい時代を感じる観衆も増加した一方で、なお拭い得ない違和感を覚える観衆も多かつた。時代が、高度経済成長の頂点に達し、アメリカと対抗しうる経済的地位に日本が登り詰めようかと意識された頃、「現代美術」は、アートというような言葉に置き換えられ、新しい地平を見いだせないような形で、人々の中に埋没していったのであろうか。

《郷土美術という近代美術》

滋賀県立近代美術館では、日本画や郷土美術という近代美術も収集し、展覧会を開催していた。それらの市場価値も、この経済の活況期には高騰し、



山元春挙「法塵一掃」

美術品は文化の中でも高踏な側面をみせるものとしてもはやされることになった。滋賀県内でも作品制作の活況がみられたのであろうが、果たしてそれが地に足の着いた動向としてであったのかどうかは、極めて疑問であらう。滋賀出身の山元春挙や野口謙蔵、また小倉遊亀などの先人たちが、求道者のようにしてその道を究めていくのとは対照的に、美術は日本経済の動向とともに翻弄され、新しい突破口を見出していないのが現状ではなからうか。

《滋賀の美術と風土》

「美術」という、造形作品がそれ自体で市場価値を持つという感覚は、芸術性などと呼ばれる特殊な価値観に依拠する、近代資本主義社会における商品の究極の姿ではないかと思われる。日本経済の凋落、というより世界的にも大きな時代の転換点に差し掛かっている今、果たして「美術」はどのような進路をたどるのであるうか。そのなかで、滋賀の美術はどのように舵を切り、若い



野口謙蔵の「冬日風景」

時代に継承されるのであろうか。当然、勤務している責任上もあって、滋賀県立近代美術館の舵をきるための羅針盤が必要とされるのであるが。

志を!!
高梨純次

● たかなし じゅんじ 昭和28年（1953）京都市に生まれ、滋賀県立琵琶湖文化館学芸員となりました。のちに滋賀県立近代美術館の開設準備に携わり、現在も勤めています。専門分野は日本美術史で、特に近江の仏像について研究しています。日本語の「美術」という単語は、万博の出品規定についての訳語に始まるとされています。展覧会などで鑑賞するために生み出される「美術」という言葉は、明治に生み出された、近代の所産なのです。人間の造形は永遠のものでしょうか、近代概念である「美術」は、近代の終末が説かれる現在、果たしてどうなってしまうのでしょうか。

寄稿《美の滋賀-3》

アール・ブリュット ～人の原点にあるエネルギー～

藤本 えりか

社会福祉法人滋賀県社会福祉事業団企画事業部
ボーダレス・アートミュージアムNO・MA 学芸員

「アール・ブリュット (Art Brut)」とは、芸術の伝統的・教育的な訓練を特に受けておらず、名声を求めずともなく、既成の芸術の流派や傾向、モードに一切とらわれずに、「何か作らずにいられない」衝動のまま表現した作品のことをいう。

「art」は芸術、「brut」はワインなどが生(き)のままであるようすをいい、日本語で「生(なま、き)の芸術」という意味だ。(イギリス人著述家ロジャー・カーディナルが英語表現に訳し替え、「アウトサイダー・アート (outsider art)」とも呼ばれている。)

《「何か」が作品になる時》

日本では、現在に至るまでの歴史的な流れから、障害のある人たちの作品が「アール・ブリュット」と思われがちであるが、必ずしもそうではない。世に発表することなく独学で孤独に作品を作り続けた人、刑務所などで初めて絵画に取り組んだ人など、作り手の

背景は様々で、今この文章を読んでいるだけでいる貴方や、貴方の隣で「何か」を作っている人の、その「何か」が、「アール・ブリュット」と呼ばれる可能性もあることを、まず知っていただきたい。

近江八幡市のボーダレス・アートミュージアムNO・MAでは、そんな「アール・ブリュット」の作り手と、一般の作家の作品と共に並列して見せることで「人間の持つ普遍的な表現の力」を体感していただく展覧会を開催している。その中でも、今年9月3日～1月3日まで開催した秋の企画展「フィギュアたちの人生」の出席者から、2人の「アール・ブリュット」の作り手を紹介しよう。

《「女の子」の石野さん》

まず一人目は、石野敬祐さん。彼は2010年3月～2011年1月まで10ヶ月間にわたって、フランスのパリ市立アル・サン・ピエール美術館で開催された「アール・ブリュット・ジャポネ」に



石野敬祐 「フィギュアたちの人生」 展示風景



石野敬祐 「女の子」2011年

(撮影：大西暢夫)

出展した63名の作家の一人でもある。作品は「女の子」をモチーフにした立体の紙人形である。形はどれも角ばり、鮮やかな配色で描かれているが、作り方は実に妙技ともいえる。まず、「コピ用紙にマジックで絵を描き、思わぬところからハサミを入れてバラバラにし、紙の帯を側面に巻くようにセロハンテープだけで固定をしていくのだ。作品は一年に300体以上生み出され、鹿児島県の自宅には「女の子」が所狭しと積まれている。

《「人形」の河野さん》

二人目は、河野咲子さん。彼女は52年間という長きに渡り、滋賀県の施設で生活している。布と糸でしっかりと縫い合わせられた人形は、施設で共に暮らす友だちだ。彼女の頭の中では、そこでみんなが自由に旅行をす



河野咲子 「裸人形」1990～1995年



河野咲子「裸人形」1990～1995年



河野咲子「裸人形」
「フィギュアたちの人生」展示風景

るなど自由奔放に暮らしているという。裸の人形は、後に、一本一本丹念に髪の毛をつけ、手作りの服を着せるために作られたものだが、大半が裸のまま、施設の倉庫の中で眠っている。背丈20cmほどのものから、1mを越えるものまで様々な大きさがああり、中には顔に三つ目があるものや、頭に角のようなものが生えているもの、小さな赤ん坊を抱いた女性と思われる人形もいる。その人形の一人一人は、彼女の頭の中の架空の国で確かに生きていくのだ。

《本質がエネルギー》

実は、この二人には障害があるのだが、一般の作家の作品と並べて展示したときに見えてくるものは、人が表現した物や、表現への欲求は、障害があってもなくても何ら変わりがないということだ。そして、「何か作らず

ボードレス・アートミュージアムNO-MA

〒523-0849

滋賀県近江八幡市永原町上16

TEL&FAX 0748-36-5018

- 休館日：月曜日（月曜が祝日の場合は、その翌日）、2011年12月29日（木）～ 2012年1月6日（金）年末年始休館
- 開館時間：11:00～17:00
- ※ 展覧会によって変更あり



NO-MA外観（撮影：大西暢夫）

2004年6月に開館。滋賀県近江八幡市の歴史ある伝統的建造物群保存地区にあり、昭和初期の町屋を和室や蔵などを活かして改築。また、滋賀県社会福祉事業団が運営する全国でも例のない公的ミュージアム。

2012年11月11日（水）まで「第8回 滋賀県施設合同企画展 …ing～障害のある人の進行形～」を開催中。NO-MA

の通常の企画展とは違い、滋賀県内の福祉施設職員が実行委員会を組織し、企画・展示を行う施設合同企画展。展覧会のために作り出された作品を展示するのではなく「日々の暮らしの中で生み出されたもの」や「日常の中で取り組んでいるもの」などを展示。「アール・ブリュット」の卵がここで見つかるかもしれない。

自覚者は責任者

藤本 三ツカ

● ふじもと 三ツか 1985年 兵庫県姫路市生まれ。東北芸術工科大学大学院 修士課程芸術文化専攻 工芸研究領域修了。高校から陶芸をはじめ「障害のあるなし関係なく、楽しめる（使える）もの」をテーマに作陶を続ける。その後、滋賀県社会福祉事業団に入職。ボードレス・アートミュージアムNO-MAを担当する。学芸員。

にはいられない」衝動に突き動かされながら制作された作品たちを見ていると、奥底に眠っている人の本質（原点）にあるエネルギーを揺さぶられる感覚に陥る。それが「アール・ブリュット」の一つの特徴であり、最大の魅力がもしれない。

寄稿

さらなる滋賀ファンの創造を！ 「滋賀・びわ湖ブランド」

南里 明日香

滋賀県総合政策部企画調整課

県民のみなさんから募集した「私の好きなびわ湖」(作品滋賀県提供)

— 私たち「滋賀・びわ湖ブランドネットワーク」は、マザーレイク・琵琶湖を「滋賀・びわ湖ブランド」の象徴・礎とし、滋賀の魅力を再認識、再編集するとともにそれらを県内外・国内外に発信していくことにより、この私たちの滋賀をさらに活性化していきます—

①滋賀・びわ湖ブランドネットワーク キックオフ宣言Ⅱ平成23年7月25日

1. 「ブランド力が弱い」説の 正しさ

みなさんは県外の人に、比叡山延暦寺って京都じゃなかったの？琵琶湖って京都じゃなかったの？と、言われた経験をお持ちではないだろうか。日経リサーチの「地域ブランド戦略サーベイ」によれば、平成16年は滋賀県のブランド力は全国都道府県中なんと最下位、その後も中低位を推移してきた。

地味で素朴、それこそが滋賀のアイデンティティの一角であり、その何が悪いのか半分は人間だけその良さを知っていてくれればよい！わざわざ滋賀をブランド化して発信する意義を怪しむ向きもあるが、地域活性化それに加えて、県民の誇りづくりのため、滋賀のブランド化の必要性を提言したい。

滋賀県が誇るポテンシャルと云えば、「人の力、自然の力、地と知の力」である。滋賀県は豊かな自然を懐に抱きながら、全国数少ない人口増加県であり、近畿圏・中部圏・北陸圏の結節点という地の利があり、多彩な学部を有する大学や民間研究所を有する等、他府県に比し様々な点で優位性がある。しかし、それを活かし切れているだろうか。また、遠くない将来、人口減少に転じることは間違いないが、その日をキリギリスの如く手をこまねいていて良いのだろうか。地産品の消費拡大、観光・交流人口の増加、投資の呼び込み、これらに戦略を持って取組む必要があるのではないか。

加えて、滋賀県民が滋賀の地に誇りを持つ、ということ。遠くブータンに例をひかずとも、我が国でも幸福の指標化は検討されてきた。本年11月、法政大学の坂本教授が発表した都道府県の幸せ度ランキングでは、滋賀県の位置は11位。豊かな自然環境や文化レベルの高さ、何より暮らしやすさゆえの好評価であった。また、県政世論調査では、「滋賀に住み続けたい」との回答が79%と驚異的な数字をはじき出している。

では、日経リサーチの惨憺たる調査の内容はなにゆえか。その内容を分析してみると、県民自身の滋賀県の評価は県外からのそれよりはるかに高い。また、県民の回答では、滋賀という土地に対して「元気な気持ちになれる(18位)」「心を癒してくれる(20位)」等の評価は高い一方、「価格や行く手間に見合った価値がある」については低位(38位)との結果であった。つまり、滋賀の暮らしに県民自身は幸せや豊かさを実感しているものの、その地域資源に

堂々と誇りを持つまでには至っていないのではないか。これは、もったいないのだろうか？

2. 県庁の取組み 〜地域の魅力まると産業化〜

滋賀県は、県政経営の総合的指針である「滋賀県基本構想」の柱の一つに「地域の魅力まると産業化」を掲げており、関係部局が連携して、滋賀のブランド力の向上に努めている。

例えば、滋賀は美しい水をたたえる琵琶湖の清涼な水・肥えた土によつて育てられた農産物の産地であるが、さらに農業・化学肥料の総量を減らすなど自然環境に配慮した栽培を実践する「環境こだわり農業」に推進しており、それを「食べることで、びわ湖を守る」推進事業」として、小学生の社会科授業で学んだり、環境学習船「うみのこ」で琵琶湖の漁業を学ぶなど、生産者と消費者を結びつけて更なるブランド化を図っている。

また、全国有数の国宝・重要文化財保有県（全国4位！）である滋賀を旅した『仏女』のブログにその旅紀行を掲載してもらい、滋賀の魅力を発信していただく「近江路・仏女ブローガー旅紀行」として情報発信を行っている。

3. 滋賀・びわ湖ブランドネットワークで発信力のかけ算を！

滋賀県の頑張りを手前味噌に述べたが、もちろん滋賀の魅力の発信者は、行政に限らない。いや、県内ではお役所仕事では考えられない柔軟でウィットに富んだ、それでいて地域に根付いた活動がなされている。

そこで冒頭のキックオフ宣言に戻るが、その様々な主体をつなぎ、そのケミストリーを楽しみ、県内外・国内外の滋賀ファンを創造する機会と場を提供するプラットフォームとして、産学官の組織「滋賀・びわ湖ブランドネットワーク」が立ち上がった。同床異夢かもしれない産学官の各団体が共有するシン

ボル、そして合い言葉たりうるものは、やはり、母なる湖、琵琶湖である。

私が滋賀に移り住み、初めて琵琶湖を前にした時、これは海かと目を疑ったものだ。その湖のそばに古より息づく文化と生活。人間と水の近さは他に類を見ず、それは「世界的な価値」と評されている。波の音は水の妖精か天女の衣ずれに聞こえ、四季折々の湖岸の表情が水の色を染めることを知った。パワースポットという言葉が流行する随分前から、水の浄土であり、聖なる地と目された土地。この暮らしの中に息づく滋賀の美しさを、もっともっとと知ってもらいたい、と切に思う。

ブランド。一見華やかながら、その確立のためには地道に息長く活動を続けていく忍耐力が必要である。滋賀の魅力を発信すべく奮闘する道程はまだ始まったばかりだ。



県民のみなさんから募集した「私の好きなびわ湖」(作品滋賀県提供)

念ずれば花開く
南里明日香！

●なんり あすか 11歳 滋賀県総合政策部企画調整課。平成18年、総務省入省。徳島県庁、外務省、総務省勤務を経て、平成23年4月より滋賀県に赴任、現職。

滋賀県の好きなところ。ものは、なぎさの風景、渡岸寺の観音様、伊吹山のお花畑、近江の地酒、フナズシ（自家製中）。

☆「滋賀・びわ湖ブランドネットワーク」にご興味のある方は、事務局までご連絡下さい。
事務局（滋賀県総合政策部企画調整課内）
TEL.077-528-3313、FAX.077-528-4830
E-mail:cu0002@pref.shiga.lg.jp

寄稿

琵琶湖の水草—有効利用最前線 有効利用しないと もったいない!

田井中 文彦

財団法人 淡水環境保全財団 専門員

1. 琵琶湖の水草

平成6年の大渇水以降、琵琶湖南湖における水草の増加が著しく、夏になると湖底の約9割(45km²)を水草が覆う状況になっています。このため、琵琶湖の水の流れの停滞、湖底の泥化の進行、溶存酸素濃度の低下など、自然環境や生態系に深刻なダメージを与えています。また、漁業や船舶の航行障害、腐敗に伴う悪臭の発生など生活環境にも悪影響を及ぼしています。

2. 水草の刈り取り

そこで、滋賀県では、増えすぎた水草の刈り取りを行っています。

刈り取り方法は大きく分けて2種類あり、水面から15mまでの水草を刈り取る「表層刈り取り」と水草を根元から刈り取る「根こそぎ刈り取り」があります。表層刈り取りは、広範囲に大量に繁茂した水草による航行障害や腐敗に伴

う悪臭の発生など生活環境への悪影響を早期に解決するために、また、根こそぎ刈り取りは、水草の繁茂によって停滞した湖水の動きを回復させ、水質や湖底環境の改善を目的としています。

これらの水草刈り取りは、琵琶湖の水草に関する知識が豊富で、多くのノウハウを持つ淡水環境保全財団が、水草繁茂による影響を予測し、刈り取り計画を作成して実施しています。

3. 水草刈り取りの工夫

水草刈り取りにはそれぞれ独特の機械や道具を使用します。

表層刈り取りでは、専用の刈り取り船「げんごろう」や「スーパークイツぶりII」を使用します。夏場にはこれらの機械が大活躍します。

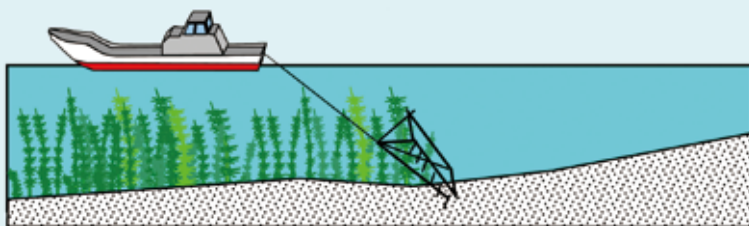
根こそぎ刈り取りは、漁船で貝曳き漁具の「マンガン」を使っています。このマンガンは一見するととても簡単な構造の漁具ですが、実は、水草刈り



表層刈り取り状況 手前:「げんごろう」 奥:「スーパー
かいつぶりII」



南湖に異常繁殖した水草



根こそぎ刈り取り概念図



重心位置等が見直された改良型マンガ



根こそぎ刈り取り 貝曳き漁具を使用

4. かつての 水草利用

ところで、水草は、琵琶湖に悪影響を及ぼしている一方で、

取りの効率を上げるために淡水環境保全財団が琵琶湖の漁師さんと共同で開発したものです。従来のマンガンと異なり、重量や爪の長さ、間隔、形状だけでなく、重心位置についても見直しが行われた改良型のマンガンであり、その結果、平成23年度の漁船一艘当たりの水草刈り取り量は、昨年約1.5倍になりました。



水草たい肥づくり状況



② たい肥化1年経過

かなり繊維質が分解されている



① たい肥化半年経過

・まだ繊維質が多い ・臭いはほとんどしない



④ たい肥化5年経過

5年経過した水草でほとんど土のように見える
100%水草たい肥で栽培したサツマイモ



③ たい肥化2年経過

繊維質はほとんど分解されてさらさらの状態

私たちの生活や農地などから流入する窒素やリンなどの栄養塩をその体に取り込み成長することから、琵琶湖の水の浄化の役割を担っています。

かつて、琵琶湖の水草は、田んぼや畑の肥料等として積極的に利用され、時には、水草を採る権利をめぐる集落同士の争いも起きるほど重要なものでした。

水草を刈り取り、農地に還元する、そして実った作物をありがたく食する、これは琵琶湖を懐に抱いた滋賀ならではの自然の流れに沿ったモノの循環利用。昔の人々がすでにこの資源循環システムをつくりあげていたことあらためて感心させられます。

5. 水草の有効活用

そこで、水草を有効活用するために、淡海環境保全財団では、刈り取った水草のたい肥化と有効利用の推進に取組んでいます。水草たい肥を農地や家庭

菜園で使っていたいただき、水草の資源循環により少しでも環境負荷削減につなげていこうというものです。

水草たい肥については、現在は、まだ実証試験を行っている段階ですが、水草たい肥の効果や各種作物に適したたい肥施肥量を調べて、多くの方に有効に利用していただくための「水草たい肥利用マニュアル」の作成に取り組んでいます。

6. 持続可能な社会に向けて

滋賀県の貴重な財産である琵琶湖を守り、これからの持続可能な社会を築いていくためには、資源循環を推進し、環境に与える負荷をいかに少なくしていくかがとても大切です。

近年になって、生活様式の変化や化学肥料の普及などから、これまでのような水草の利用は減っています。しかし、環境への負荷を減らすという意味からも、私たちは先人の知恵を活かし、

資源循環という視点で、あらためて水草の利用に取組んでいく必要があると考えています。

〔モニター募集中〕

なお、淡海環境保全財団では、水草たい肥の効果を把握するための試験と一緒に実施していただけるモニターを募集しています。興味のある方は、左記までご連絡ください。

黙、誠心通
田井中文彦

● たいなか ふみひこ 1994年より財団法人淡海環境保全財団に勤務。主に琵琶湖のヨシ、水草、環境学習事業に関わる。近年は、市民のヨシ植栽やヨシ刈り事業を支援している。

● 淡海環境保全財団
〒525-0800
滋賀県大津市松本一丁目2-1
TEL 077-524-7168



弁才天さまのお興入れ。厨子を預かる沓水氏、息子さん、奥様も。

辯才天様をお迎えして

沓水 節夫

竹生島辯才天蓮華会 先頭人

弊誌の所在地長浜市には弁天様で有名な竹生島があります。同市に住む知人の沓水節夫氏から「(弁天様をお祀りする) 竹生島宝巖寺の蓮華会(れんげえ)の頭人をお受けする誉に預かった」と聞き、8月15日に執り行われた蓮華会の榊入れの儀に参列させていただきました。下八木という集落は水路が流れる美しい集落です。人々は先祖伝来の土地を守ります。広大な田んぼは季節ともなればたわに稲穂が実り、畑には野菜が元気に育っています。先祖伝来の法要を今も営み、その風景は古式ゆかしく巖かでした。

竹生島には「蓮華会(れんげえ)大法要」があります。これは九百七十七年円融天皇によって行われた「五穀豊穡」「国家安穩」「万民豊榮」を祈念した法要を起源とした行事です。歴代の蓮華会頭役を列記した現存する書籍には千五百六十六年に戦国大名の浅井久政が、翌年にはその母・寿松が頭人を務めたと記されています。

竹生島から牛玉箱が

昨年頭人としてご奉仕の尊命を拝受いたしました。年初めの一月八日竹生島から牛玉箱(ごうば)・蓮華を受けた印で二十センチメートル角の木の箱)を神役(地元早崎の蓮華会の世話をする方)の方が持参され、僧侶は先祖への報告のお経を上げに当家に見えました。

神入れの儀

五月二十八日「神入れの儀」には竹生島から宝殿寺管主・僧侶・神役・厨子に納められた辯天様が落ち着き宿(当家の親戚宅)に到着されます。落ち着き宿からはお練りで稚児を先頭に、御正体

(刀の代わりで辯天様をお守りします)宝殿寺管主様・頭人が持つ

辯天様・親戚の者と続く二百メートルの行列で頭人の家まで歩みます。その間多くの住民の方が辯天様を拝みに辻にみえます。頭人の家に着くと床の間の祭壇に安置し、法要が始まります。次に「辯才天」と書いた碑の前でお経を上げられその後、ご来賓賜りました方への披露宴となります。

子どもたちも

八月十五日までは辯天様と碑には御神酒・洗米・塩等ご奉仕します。辯天様をお預かりしますと様々な人がお参りに見え

- ① 3つの碑が並ぶ ② 床の間の祭壇に安置され法要が始まる ③ 正装をした皆さんが駆けつける





1



3



2

① 竹生島にご到着。先頭は管主の峰寛雄氏 ② お稚児さんも急な石段を登ります ③ 厨子を丁寧に運ぶ沓水氏

ました。六月二日には小学三年生の児童が学校より地域探検でこられました。子どもたちは初めて見る辯天様に興味津々。お供えのお饅頭をもらって大喜びでした。後に子ども達から御礼の手紙を多数いただきました。地域の方もたくさんお参りにみえ辨天様を近くで拝顔していただくことができました。

大法要

八月十五日の蓮華会大法要は、九時に長浜港の観光船に乗り竹生島へと向かいました。島に着くと神役の方々

や稚児の出迎えを受け、厨子に納めた辯天様と本坊へ向かいます。頭人は二重座布団に座り、肘掛・煙管ときざみ煙草が入ったたばこ盆が用意され、大名になった気分になります。まもなく稚児を先頭に雅楽隊・管主はじめ僧侶、そして頭人の二組・四月祭りの二組がそれぞれの辯天様を持ち本堂までのお練りが始まります。本堂では十数名の僧侶による厳肅かつ荘厳なる蓮華会の法要が行われます。終わると直会（なおらえ）があります。木杯で始まり次に一合は入るような杯で酒を飲み交わします。島から帰るときは、管主様はじめ神役や世話方様に港までお見送りいただきました。

島の四月祭り

下八木地区には「島の四月祭り」があります。平安時代『竹生島蓮華会』遂行のために円融天皇が島に行幸し、天皇が乗る鳳輦（ほうりん）の前後を下八木・富田の区民が警護し、天皇が在島中には日々の御膳を献上したと伝えられています。このことが四月祭りの



本堂での蓮華会大法要

始まりで、毎年両地区には辯天様が見え、蓮華の頭人が行うのと同じように、床の間には祭壇を組み辯天様を祀ります。

● 独身長男と結婚

下八木は独身の長男宅と決まっております、若者は島の辨天様として伴侶となる女性と二度結婚式を行うこととなります。私が昭和四十七年に、息子は二年前にそれぞれご奉仕し、わが家には牛玉箱・辯才天碑を三つ並べることになりました。

● 水の神様の恵の雨

辯天様は水の神様と言われるように、昭和四十七年四月は小雪が降り、二年前前は小雨、今年の五月も小雨がぱらつきながらお練りの時は不思議と雨が止みました。八月十五日は朝から小雨でしたが島に着くと雨は上がり法要は無事終了しました。三回お迎えしましたが毎回辯天様は水を連れてこられますが、不思議と大雨にはなりません。私の生涯で三回辯天様をお迎えることができ、家族一同この巡り合わせと名譽に感謝しています。

竹上下節有 沓水節夫

● くつみずせつお1949年生まれ。元滋賀県立農業高校教諭。長浜市社会教育委員。長浜市青少年育成市民会議、子供110番の家、サークル・キラリびわ事務局長（びわ公民館を支援するボランティアグループで会員は十八名）などで活動。



よばれやんたか？ 湖北のうまいもん

「よばれやんせ湖北 生産者・消費者交流会」顛末記

小西 光代

長浜み～な編集室代表



港に興味津々の子どもたち

- 開催日：11月19日（土）
- 場所：朝日漁業会館（長浜市湖北町尾上）
- 主催：よばれやんせ湖北実行委員会
（株式会社びわ鮎センター・吉田農園・株式会社口ハス余呉・有限会社GAIA Community・辻村写真事務所・湖国の里山・MOH通信・NPO法人木野環境・長浜み～な編集室）
- 協賛：パイン株式会社
- 協力：長浜市地産地消推進協議会（長浜市農政課）・NPO法人環人ネット・長浜バイオインキュベーションセンター



2



3

①参加者の年齢は1歳半～80歳まで老若男女が大集合 ②産卵期を迎え、きれいな紅色になったピワマス(メス)を手にする松岡正富さん。びわ鮎センターの川瀬利弥さん(左)。進行役は長浜バイオクラスターネットワークの川瀬智久さんが務めた ③「食から地域を盛り上げよう」と語る成田賀寿代さんと森建司さん

「お手伝いしてほしいことがありますね」

M・O・H編

集長・辻村夢美

さんからの電

話は、こんな

ふうにかかっ

てきたように

思う。今年3

月、多賀町で

開催した生産

者と消費者の

交流会を、今

度は湖北で開

きたいので実

行委員に入っ

てくれない？

という内容だ

った。件の様子

は、M・O・H

通信32号で読

んでいたし、

ちよつと小誌でも食文化の特集を考えていたところ。情報交換しながら進めていきましょつと、仲間に入れてもらつことにした。

実行委員の顔合わせは5月13日。企画の方向性がかたまり、開催日を11月19日、イベント名を、どうぞ食べてくださいという湖北の方言から「よばれやんせ湖北」と決めたのは、さらに次回、会議を重ねたところだった。

会場の選定には、いくつかの条件があった。広い駐車場が確保できること。一時に何人もが使える調理場があること。湖北らしいロケーションがあればなおよし。そこで提案され、今回の会場となった朝日漁業会館は、晴れなら夕日のおみやげ付き！ワクワク感が高まつていく。参加者の規模が決まると、多くの生産者グループのなかから、今までお付き合いのあつた方を中心にお声掛けを始めた。

メニューが決定するなかで話が急展開したのは、開催を1ヶ月後に控えたころだった。せっかつ湖畔で開催する

よばれやんせ湖北
〈本日のお品書き〉

- **ビワマス** 天然もの:尾上漁業組合、
養殖もの:びわ鮎センター/鮎
茶屋かわせ
- **マスコロ** 糠漬け炙り/梅花亭
- **佃煮**(イタドリ・食用アザミ)/甲津原漬物
加工部
- **サラダ**(焼畑でとれた山カブのドレッシング
和え)/ウッドパル余呉
- **おろしそば**(伊吹大根)/湖北えんもんづくり
本舗
- **ご飯** 米粉マドレーヌ/吉田農園
- **具だくさんの味噌汁**/食育なかはま元気っ
子の会
- **赤カブ漬け物**/筑摩赤丸生産グループ
- **白菜たみ漬け**/三姉妹本舗
- **パンいろいろ**/mom's Kitchen
- **豆乳ぶるん**/あやべとうふ店
- **葉草茶**(ヨモギ・ビワ・イタドリ・ゲンノショウ
コ・クマザサ)/伊吹の谷口さん
- **菊水飴**
- **お土産** パイン飴1袋/パイン



①

① ビワマス料理をメインにテーブルいっぱいのごちそうが並んだ ② 生産者を交えてはさむ食談義 ③ 子どもたちもお手伝い ④ 湖北えんもんづくり本舗の林 景香さん



③



②



④

なら湖魚を…できれば、今、話題のピワマスをぜひメインに！無理な要望かと思っただが、協力の輪がさらに広がった結果、主催者側もびっくりするようになった。ピワマスメニューが並ぶことになった。

イベント当日は予報どおりの雨模様だったが、会場の大広間は70人あまりの参加者で埋まった。まず1回目のトークタイム。漁師の松岡正富さん（尾上朝日漁協）は、実際に使う網を広げて、刺し網漁の方法やピワマスとの応酬など、湖での裏話を披露。養殖に携わる川瀬利弥さん（びわ鮎センター）は、養殖は、お客さんへの安定供給ができるよう、天然物を補完するためのものと話された。

そのころ階下の調理場では、煮込んだり、蕎麦をゆがいたり、盛りつけをしたりとおおわらわ。OKの合図で会場へ料理が次々と並び込まれると、参加者からはどよめきが…。場がヒートアップしたのは、ピワマスの鍋に火が入ったからだけではないだろう。「いただきます」と手を合わせ、湖や

大地に育まれた食材をふんだんに使った料理に舌鼓をうちながら、生産者の思いに耳を傾ける。読者のみなさんには、写真と「お品書き」から、このゼいたくなくひとときをご想像いただきたい。

食事の後は、参加者の声を交えながら、「食から地域を盛り上げましょう」というテーマで、成田賀寿代さん（長浜市地産地消協議会会長・こだわりの滋養ネットワーク）と森建司さん（M・O・H通信代表）の対談。湖北に惚れ込んでいるという成田さんは、ご自身の経験談とともに、命の基本はご飯、食べることのすべてを子どもたちに伝えてほしい、また、森さんは、このような機会を継続して滋養の食を買いたい支える仕組みを立ち上げましょうと熱く語られた。

夕日のおみやげがなかったのは残念だったが、眼福、満腹で至福の一日。湖国の魅力を次はどんなふうにご手渡ししていこうかと、M・O・H編集長は画策中。次回はみなさんもぜひお仲間へ。



湖北の地産地消について特集した「み～なびわ湖から」112号

（480円 湖北地域のおもな書店などで販売）

●問合せ先
〒526-0059 長浜市元浜町14-23
TEL.0749-63-0317
FAX.0749-63-0400
URL <http://n-miina.net/>
e-mail biwako@n-miina.net

すしがんばってみる
小西光代

●ここにし みつより滋賀県長浜市生まれ。育児に専念後、1990年秋より地域情報誌『みくな』専任スタッフとなる。「知ってるつもり」の再発見を合言葉に、湖北が大好きな仲間たちと現場へ足を運んで取材を重ねている。



くつきの森 山のめぐみフォーラム2011 開催

9月23日、くつきの森で
「山のめぐみフォーラム2011」を開催しました。

🌲 林業を活性化

山のめぐみには様々なものがあると思われませんが、やはり、その最大のもは山の木ではないでしょうか？ 朽木に限られたことではありませんが山を覗いてみると、間伐も枝打ちもされずに放置された林の多さや、きれいに間伐された林であっても間伐材が林内に切り捨てられ放置されたままの姿などが目立ちます。

子どもの頃、父親に連れられて山へ行き、杉の植栽や杉起こし、下刈りの手伝いをしたことを思い出しますが、40年以上を経た現在の姿はというと、右記のような残念なことになっております。

せっかく、手間暇かけて育てた杉や檜の現状を見ると「あまりにももったいない、何とかならないだろうか？」という思いから、今一度、林業のことについてみんなで考えてみようとして「山のめぐみフォーラム」の開催となりました。

講師は、林材ジャーナリストの赤堀



2



4



3

①山の行方をみんなが考えよう ②赤堀氏のお話を真剣に聞く ③いつながら美味しいふるさとの味 ④つぎの夜は更けて、ペットボトルキャンドルが足元を照らす

楠雄さんに「林業をめぐる最近の動きと地域林業の展望」について総括的にご講演をいただき、NPO法人土佐の森救援隊の中嶋建造さんには「小規模林家が変われば山も変わる」と題し間伐材の活用を含めた先進的な取組みを紹介いただきました。また、地元からは高島市森林組合の岩淵篤さんに「山に人が住まなくなったら森林は崩壊する」と題し高島市における取組みを紹介していただきました。

パネルディスカッションは時間が短く十分な議論まで入れなかつたのが残念でしたが、土佐での活力のある取組みなどから、フォーラムに参加いただいた方々にとっては、もう一度林業のあり方について問い直してみたい機会になったのではないでしょう。

フォーラムに引き続き、第2部は、いつも大人気の丸八百貨店むつみ会調理による「朽木の伝統田舎料理」と長浜市のシェリーズの皆さんによる参加型音楽会で秋の夜長を楽しんでいただきました。〈麻生里山たより〉

移り住むなら滋賀県・湖北 田舎暮らしフェスタ2011

10月23日、長浜市立杉野小中学校
で「田舎暮らしフェスタ2011」が
開催されました。

豊田 綾

いざない湖北定住センター事務局職員



①地元の美味しい味が準備され杉野は活気づく

「移り住むなら滋賀県・湖北 田舎暮らしフェスタ」は、湖北地域への移住・交流居住を希望する人や湖北という地域に興味がある人に、湖北のことをより知ってもらうことと、人と人が出会い、交流のきっかけの場となることを目的としたイベントで、今年で3回目の開催です。これまで2009年に旧余呉小学校(長浜市余呉町下余呉)、2010年に東草野小中学校甲津原分校(米原市甲津原)で開催されました。

今回は長浜市立杉野小中学校(長浜市木之本町杉野)を主会場に、ステージイベント、セミナー、ブース展示、木工体験、余呉型古民家の再現、体験プログラムなど、いろんな催しを詰め込んだ多彩なイベントとなりました。

体育館内に設けられたステージでは、「移住者トーク」が二部に分かれて行われました。「移住者」と「地元住民受け入れ側」、双方の立場から移住についてのお話を聞くことができ、これからの移住について考えて行く上で参考になったのではないだろうか。

また、「移住者トーク」の会場には、「地

♡
仲良し恋よし



② 移住者トーク ③ M・O・Hも出展 ④ 美味しそう ⑤ 新鮮な山の幸が豊富に ⑥ こいこい滋賀をPR

「地域PR・湖北の魅力伝えますー」として、地域づくり団体さんら12組に、活動や取組みについてPRしていただきました。

体育館内外にすらりと並んだ29のブースでは、地域の情報や魅力を発信したり、日頃の活動について報告したり、郷土料理や農産物などを販売したりなど、湖北のことをいろんな角度から知ることで、みる場となりました。

地元・湖北で採れた新米でつくったおにぎり・そばの食へくらへも好評で、用意していた分は早々に売り切れていました。

「田舎暮らしへの近道は地域の人と仲良くなること」。いつも私たちが移住希望者さんにお伝えしていることです。「田舎暮らしフェスタ」がそのきっかけとなり、交流が生まれ、地域がますます元気になってゆくことを目標に、これからも活動を続けていきたいと思えます。

移り住むなら
滋賀県湖北
曲田綾

● ことよた あやこ 一九八〇年生まれ。いざない湖北定住センター事務局職員。滋賀県彦根市出身。在住。

山暮らし 子育て日記

作: 松エキ

「オになった息子を
連れて、近所を散歩。」



おばあさんたちが
ひなたぼっこ中。



よえー

お散歩か



ヨケ
ヨケ
ヨケ……



ひどいよ。
もう歩くんけ。



ひどいよ
ひどいよ……

ひどい？



ひどいことなんて
してないよ。

……と田舎っぺ



ひどいとは

「ひどい」という意味らしい。

ちなみに
「ひどい」は「おどろ」という。



「昨日の事故は
おじいちゃんだったな？」など。

あ？泣くな。



なんで泣くんや？

もう昼やサケエな。
この子もひだるん
ちゃうか。



もう昼け。

さうちも
いのかな。



フムム……

「ひだる」とは
「お腹すいた」

「いのかな」は
「帰ろうかな」
という意味。



朽木の言葉集も
だぶんわかるように
なってる……

「ひだる」とは「お腹すいた」
「いのかな」は「帰ろうかな」
という意味。



朽木生活15年目！

時々、おぼあんだちが何を話しているかわからないコトがある。



「ん? キヨモン? ドンナ? ヨソベ? 人ウサ? サジモン?」

「誰の話してるの?」

この辺りには名家の他に「家号」がある。

「キヨモン」

「サジモン」

「どうせもん」

「どうせもん」

「家号で呼ぶコトが多いのだ。」

また、ややこしい言葉もある。

「おまえは車の運転しかねる。サジモン。」

「ええのう...」

「これは、運転ができませんから!」

「という意味。」

「〇〇しかねる」は「〇〇できない」という意味なのだ。」

また、

「あんたらが、かっている家の...」

「ん?」

これは「買っている家」ではなく「借りている家」。

「ちなみに「買った家」は「こうたう家」となる。」

「おもしい言葉といえば、おもしろい風習もある。例えばイオの誕生日に、」

「1オ! 1オ!」

「ヨイショ」

「子どもにお餅を、背負わせる。」

一升のお餅を2個、重ねて

米 1升 = 10合 (1.5kg)

「一升」食物に困らない、という。

「集落によっては、一升餅ひとつだけたり、小さい餅も一升分をまとめた。」

「一升餅」

「小さい餅も一升分をまとめた。」

うちの息子も背負わせた。



2kgもある餅を背負って立てるはずないが、みんなではやして祝った。

「餅、しょうたんか。」

「びいびい、びいびい、びいびい。」

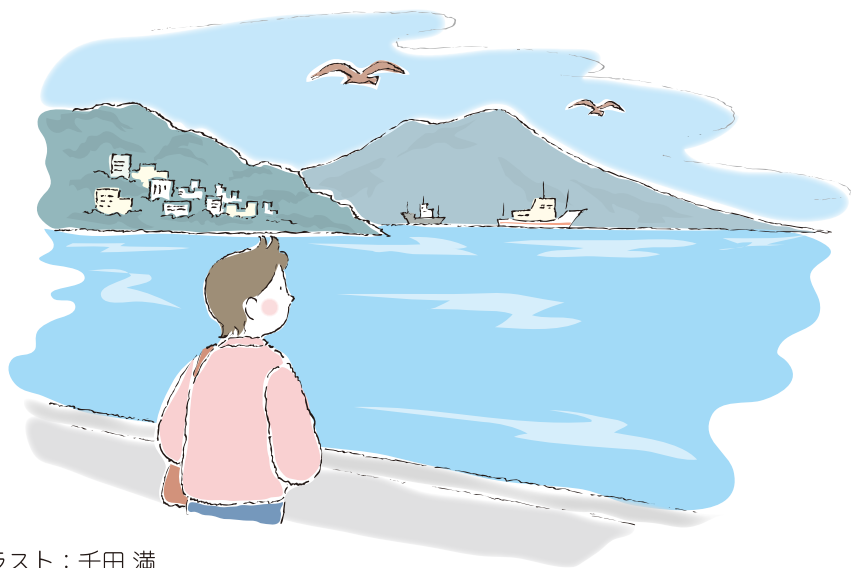
「びいびい、びいびい、びいびい。」

「びいびい、びいびい、びいびい。」

●オノ・ミノキ(本名加藤みゆき) 1974年生まれ。滋賀県志賀町育ち。
 1997年に朽木村現高島市に移住。朽木の自然、行事、人間などを3冊の本にまとめ出版。現在は3人の子どもを子育て中。

真の小ささを 知っていました

今関 信子



イラスト：千田 満

東日本大震災から七ヶ月が過ぎようとする日、私は、気仙沼の大島を訪ねようとしていました。ここに津波を乗り越った男の人がいると聞いたからです。彼は、気仙沼港と大島をつなぐ臨時連絡船の船長ですが、以前は、マグロ漁船にも乗った海の男です。島の人から「ひまわりさん」と呼ばれています。

ぐらつと来た揺れは長くて、これはいつもの地震とは違うぞと感じて、「ひまわりさん」は、船を沖に出そうと考えました。どの船も停泊していて、沖に出ている船がなかったからです。島には津波の時は、「てんでんここに逃げる」と言い伝えがあります。同じ行動するな、それぞれの判断で逃げる、そんな意味のようです。「てんでんこをやらねば、全滅する」、藤原さんはとっさの判断で、沖に出ていきました。「ひまわりさん」の命がけの格闘は、島の人々のためになる、ただその一念だったと言います。

「ひまわりさん」の船が沖に向かった

とき、津波はすでに湾内に入ってきていて、押し波が浜を舐めていました。それでも、島の人たちには、緊迫した感じはありませんでした。いつものように防波堤が防いでくれるだろうと考えていたのです。

「早くしないと危ないよ。」

「いま、戸しめてくから、先行って。」

「戸なんて気にしないで、逃げたらいいの……。」

「あっ、位牌忘れた。」

「戻っている暇ないよ。」

「でも、位牌だもの。取ってくるだけだから。」

「こんな会話が、飛び交いました。」

「あの時は、何が何だか分からなかった。あつという間に、水がきたんだもの。」

「同じ所にいたのに……。」

「二分前まで話していたのに……。」

しばらく沈黙が続きます。瞬間、生と死の境を経験した人たちです。

「おれは、何かに守ってもらったとは思えない。津波は乗り切っても、島

に帰れるか不安だったよ。家だ船だ自動車だ、タンクだバケツだ材木だ、ありとあらゆる物が流れてくるだろ。その間を走ったんだけど、船が近づくと材木が避けてくれるんだわ。道ができるんだよなあ。そうとしか思えないんだわ。」

藤原さんだけでなく、どの人もどこか「不思議」を感じていました。

二泊三日の取材を終えて、私は、気仙沼港に立っています。空をトンビが舞っています。空の青を写して、海が真つ青です。波がありません。遠く沖合を船が行きます。

建物が流されて、ガランとした浜に目を転じた時、寒くないのに震えが来ました。津波がこの浜を飲み込んだ様子が感じ取れたのです。自分が枯れ葉のような感じがしました。

自分の小ささを感じた人たちは、自分を越えた大きなモノを感じないではいられないでしょう。

共に生きていき

今問屋子

● いませぎ のぶこ 1942年、東京生まれ。東京保育女子学院卒業後、幼稚園教諭となる。7年間保育者として働いた後、創作活動にはいる。日本児童文学者協会理事。

〈主な著書〉『小犬の裁判はじめます』1987 童心社 青少年読書感想文コンクール課題図書。『さよならの日のねずみ花火』1995 国土社 青少年読書感想文コンクール課題図書。厚生省中央児童福祉審議会推薦文化財。「地雷の村で「寺子屋」づくり」2003 PHP 研究所など多数

● せんだ みつる 1950年、滋賀県生まれ。大阪のデザイン会社を経て1980年「イラストレーションスタジオオアピロード」設立。イラストレーションを中心にポスターやパンフレット等を制作、ロゴマークやパース・キャラクターデザイン等グラフィック全般、広告・エディトリアルを中心に活動中。

M. Senda

<商家の家訓の話 第19回>

番外編Ⅱ

大震災に寄せて—
海外移住者の真情

末永 國紀



「大震災救援募金活動のポスター」

太平洋戦争前までの日系カナダ移民のうち、数においてもっとも多かったのは、滋賀県出身者であった。その日系人のほとんどは、太平洋に面したブリティッシュ・コロンビア州に住んで

呼ばれ、広大な平野の広がる隣州のアルバータ州であり、主に南部のレスブリッジ市周辺であった。

江戸時代に日本全国を商圏とした近江商人は、近代以降は中国大陸や

アメリカ大陸など海外へも雄飛した。カナダへ渡航した滋賀県人のなかには、ビジネスを通じて定住した人々がいるはず、と見当をつけて調査を開始したのは20年前である。

滋賀県移民によって成り立った絹布商社会社を発見し、子孫と史料を探して夏季になると主にカナダ中西部をレンタカーで走り回った。レスブリッジの近郊には、絹布商社会社の情報を最初に教えてくれた、琵琶湖畔の犬上郡八坂（現・彦根市）出身の藤田春太郎・たみ子夫妻が住んでいた。

いた。戦争の勃発によってカナダと日本は敵国同士になり、日系人は海岸線から160キロ以上の奥地へ強制移動させられた。

移動先の一つは、別名大平原州とも

レスブリッジは、カルガリーから200キロ南下したところに位置し、

人口8万3000人の農産物集散の地方都市である。夏の最高気温が35度前後、冬の最低気温はマイナス35度にもなるという厳しい気候である。

年間雨量は400ミリしかないので、農業は、ロッキーマウンテンから水を引いてスプリングラーで散水する灌漑農業である。作物は、麦、ジャガイモ、砂糖大根、ナタネが主な産物であり、酪農や肉牛生産も盛んである。特に肉牛は、アルバータ牛として有名。

藤田夫妻を介して、レスブリッジ近郊で酪農を営む河井良夫・ちよ子夫妻と出会い、子供の年齢が似通っていたこともあり、以後家族ぐるみの付き合いとなった。河井夫妻は、戦争前の移民とは移住背景の異なる新移民者と呼ばれる移民である。河井氏は1974年にカナダに移住し、1981年から酪農を始めた。

河井氏との結婚によってカナダへ移住した東京出身のちよ子夫人は、二人の子供が通ったレスブリッジ日本語学校の日本語教師となった。日本語学校は現在では生徒数34名、教師

はほとんどボランティアによる新移民者5名で運営され、ちよ子夫人は校長である。

3月11日の大震災の報は、日本語学校の子供たちの若い母親に大きな衝撃を与えた。異国に住むだけに被災地の人々の力になりたいとの想いは、望郷の念と重なって一層強かった。母親たちの提案をきっかけに、遠く離れていても可能な救援活動が自発的に組織された。震災救援基金の募集である。

募金は、それぞれが手作りして持ち寄った焼き菓子などを販売することによって調達された。PRのためのポスターを作成し、「がんばれにっぼん」と染めたそろいのTシャツを着たこの活動は、レスブリッジ日本語学校だけでなく他の日系団体と合同してのものであった。すなわち、南アルバータ仏教会、レスブリッジ地域の日系キリスト教会、沖縄文化会、南アルバータ新移民者会であり、オール日系団体を挙げての催事となった。

日時は4月30日午後1時から3時、

場所は新築なった南アルバータ仏教会であった。レスブリッジの周辺地域を含む多くの人々の来場があり、大盛会となった。なかには、まる1日の売上の全額を寄付してくれたレスブリッジ市内の中華レストランもあったという。

この南アルバータの救援ボランティア活動は、世界中でおこなわれたであろう大震災に対する日系移民者の祖国への真情を示すほんの一例である。

近江商人に学べ

末永國紀

●すえながくにことし1943年生れ。同志社大学経済学部教授。経済学博士。(財)

近江商人郷土館館長。

著書『近代近江商人経営史論』(有斐閣)、

『近江商人』(中公新書)、『近江商人入門』

(サンライズ出版)、『日系カナダ移民の社会史』(ミネルヴァ書房)、『近江商人 三方よし経営に学ぶ』(ミネルヴァ書房)

鮎味噌

三山 元暎



さし絵:中川 善雄

晩秋の秋時雨がやがて時雨となり、陽の光が白っぽく見えてくると師走。伊吹の山が冬化粧し、ヤツデの花が散り終われば、もう寒さは本番になる。

この季節、ひそかな楽しみがある。寒鮎がうまい。淡水魚は苦手という人も多いが、湖国生れには、臭みがなく、脂がのっていて、なによりのご馳走だ。五十年

年来のなじみである湖魚売りのKさんが「おはようさん、いい鮎が入った。どうやろ」とやってくる日が待ちどおしい。

鮎の子まぶしのおつくり(刺身は、かつては冬の客膳

では欠かせないものだった。これも好物だが、なんといつても「鮎味噌」が最高だ。

この辺りの在所では、予持ちの寒鮎を骨がボロボロになるまで、二昼夜炊きしめて味噌を加えて煮詰めたものが定番である。栄養価にも保存にも優れた冬の味覚として、かつてはほとんどの家庭でつくられていた。いまは、つくる家庭も少なくなってきた。

寒鮎の煮くずれて目玉こぼしけり 八木絵馬

わが家の「鮎味噌」は、いたってシンプルである。生きのいい予持ちの寒鮎を、昆布を敷き詰めた鍋に入れ、鮎が浮くくらい水を加え、沸騰させてアクをとる。二時間ほど「トトコト」と炊きし

めて、味噌と砂糖を加えて煮込めば出来上がりだ。一晚寝かせて煮汁が冷め、プリン状になった姿煮の鮎をお皿に盛って、鮎の身に味噌を塗るようにしてご飯と一緒に食べる。毎日食べても飽きが来ないわが家一番のおふくろの味である。

「鮎味噌」は、各家庭独自の味がある郷土料理であるが、賤力岳の麓にある料亭、想古亭源内の「鮎の味噌蒸し」は絶品。ふくらはぎと蒸し上がった鮎と特製味噌の風味がたまらない。

●なががわ よしお 1936年生まれ。滋賀県展・長浜市展・伊吹を描く絵画展など入賞、入選歴多数あり。税理士。三山さんのプロフィールは24ページ

本の紹介

最近入手した、気になる本・CD・DVD
をご紹介します。

BOOKS

日本でいちばん幸せな県民



● 著者／坂本光司&幸福度指数研究会
● 発行／PHP研究所
● 価格／1000円＋税

● 内容／ハピネス（幸福度）をものさしにする。福井県が日本一幸せな県民。40の指標で幸福度をランキング。今、もっとも話題の本。

リーダーシップ10



- 著者／山口幸正
 - 発行／一般社団法人日本監督士協会
 - 価格／800円
 - 内容／「新・改善改革探訪記」循環型社会をめざし、人々のやる気を結集する会社として弊社が登場。
- ## 人と地域を生きる
- 編集／武邑尚彦教授退官記念出版編集委員会
 - 発行／滋賀県立大学人と地域ゼミ
 - 内容／県立大学の看板教授武邑尚彦氏が学生に問う「君たちは本当に幸せか？」
- ## 神仏います近江
- 編集・発行／神仏います近江実行委員会

- 制作／思文閣出版
- 内容／特別展「神仏います近江展」の図録。滋賀県立近代美術館&MIHOミュージアム&大津歴史博物館でのリリース展示。

武将が継った神仏たち



- 発行／滋賀県立安土老考古博物館
- 内容／安土城考古博物館の秋季特別展の展示図録。本能寺の変の直前、明智光秀は愛宕山で開催された連歌の会で愛宕権現に祈願した。その軍神を隣近にみる。

湖国と文化137号



- 発行／滋賀県文化振興事業団
- 価格／600円＋税
- 内容／特集は「近江茶どころ」。

ろ」。内容刷新で見どころ満載。「今どきのお寺見聞」も新連載。

浅井長政と姉川合戦



- 発行／サンライズ出版
- 価格／1200円＋税
- 内容／浅井軍のミステリーに挑む。史料から読み取るもう一つの歴史。

写真アルバム 湖北の昭和



- 発行／いき出版
- 監修／吉田一郎
- 価格／9514円＋税
- 内容／写真は時代の証言者。懐かしい思い出が多くの共感を呼び、ふるさとを確かめ地域の将来を考えるよすがになれば。

〈インターナショナルメッセージー独逸〉

薪の燃える暖炉と 湯たんぽ



原 修子

「薪の燃える暖炉」、「湯たんぽ」。これが「温故知新」という言葉を目にした時に最初に浮かんだ言葉とイメージ。

ドイツの冬は厳しい。ドイツで大切なのは冷房よりも暖房。30年前のドイツの自動車には、ヒーターは標準仕様でついていたが、冷房はなかった。それほど暖房が大切なのである。家屋も例外ではない。例えば今私が住んでいるところは、各部屋の温度調節が可能なセントラルヒーティングとなっているが、これが標準である。がながんと暖房を効かし、夏と変わらないような服装で過ごす人もいるが、しかし私は冬のだから寒くて当たり前と、部屋の温度はそれほど上げないで、冬物の衣服を着ている。その私が愛用しているのが「湯たんぽ」。コンピュータのキーを叩いていると手先が冷えてくる。その時には膝の上に一個

置いて、指を温める。足元に冷えてくると足元に一個。合わせて二個を活用している。私なりの省エネ、環境対策。

最近バイエルン州では自分で電動のこぎりを使用しクリスマスツリーや薪用の木を伐採したい人の免許制を導入した。その理由の一つには暖炉の見直しがある。新築に積極的に取り入れられてくるようになってきている。また「暖炉」を取り付ける為に改築する人もいる。燃やす材料は薪か木のペレット。かつては木を燃やすという事で大気を汚染すると言われたが、石油を燃料として使用するより環境に優しいと見直されるようになって来た。アウグスブルクにある環境研究所の一教授によれば、「木を燃焼する時に、その木が朽ち果てて出る二酸化炭素の量はその木が酸素に還元した二酸化炭素の量と同じである

ので、環境に負荷を与えないものではない」、「問題なのは、何を燃やすかである。木を使用する事により、石炭・石油等を燃焼させる時に発生する二酸化炭素の量を減少させる事が出来る」といって見解である。

温故知新、故きをたずね新しきを知る」と読まれているが、故きをあたため新しきを知るという読み方もある。この言葉を目にした時、何か温かいものを感じ、「薪の燃える暖炉」と「湯たんぽ」を思い浮かべたのは「温」の一字によるのかもしれない。

原 修子

●はらしゅつこーい徳島市出身。1972年よりドイツアウグスブルク市在住。國學院大学文学部哲学科及びアウグスブルク大学カトリック神学卒業。職業、通訳。翻訳。

講演日記

皆様のご支援でたくさん
の講演依頼を頂きました。
2011年9月～11月の講演を
ダイジェスト版でお知らせします。

● 六荘消費生活フェア
日時：平成23年9月24日

● 主催：六荘地区地域づくり協議会

● 対象：参加者15名

● 会場：六荘公民館

● 演題：エコな生活で地域づくりを

● 講師：辻村琴美

● 執筆者懇談会25

● 日時：10月9日

● 主催：弊誌

● 対象：執筆者14名

● 会場：安兵衛

● 話題提供：森建司

● びわ湖環境ビジネス
メッセ2011

● 工場見学会

● 日時：10月19日

● 主催：長浜商工会議所

● 対象：希望者14名

● 内容：eプラザ見学と講話

● 会場：当社

● 演題：共生経済社会への意識革命

● 講師：森建司

● スマートコミュニティ
を考える



● 日時：10月20日

● 主催：NPO法人EE

● ネット（共催：M.O.H
通信）

● 対象：びわ湖環境ビジネス
メッセ2011同

● 時セミナー90名

● 会場：滋賀県立長浜下
ームセミナー室

● 講師：同志社大学

● 千田二郎教授（株エィ

● ワット代表取締役、E
Eネット理事長・柴田

● 政明

● 演題：持続可能社会は、
経済至上主義を否定
する

● 講師：森建司

● 第26回びわ湖サロン

● 日時：11月5日

● 主催：びわ湖の水と環
境を守る会

● 対象：会員25名

● 会場：大津市生涯学習
センター

● 演題：経済至上主義で
なく「共生経済社会へ」

● 講師：森建司

● 滋賀県トラック協会
長浜支部環境部会総会

● 日時：11月9日

● 主催：滋賀県トラック
協会長浜支部

● 場所：当社

● 内容：eプラザ見学と
講話

● 演題：自立型地域おこ
しを可能にする共生
経済社会

● 講師：森建司



● 滋賀銀行
瀬田経友会研修



● 日時：11月18日

● 主催：瀬田経友会

● 対象：会員25名

● 演題：地域産業復興の
応援を

● 講師：森建司



● 日時：11月28日

● 主催：アタックスグルー
プ・法政大学経営革新
フォーラム21

● 対象：会員35名

● 会場：新江州eプラザ

● 講師：森建司

● 演題：経済至上主義を
否定する「共生経済社
会」への意識革命

● 会場：新江州eプラザ

M・O・H
せんりゅう

第5回 M・O・Hせんりゅうコンテスト 2011 ベスト3決定

本年3月～皆様にご投票いただきました
「M・O・Hせんりゅうコンテスト」もいよいよ大詰めとなってまいりました。
恒例のハイライト行事びわ湖環境ビジネスメッセも終了し集計をいたしました。
さあ、いよいよ、ベスト3の発表です!!

《1位》もう (M・O・H) いいよ 無駄な生活 ほどほどに (支持率16%)

《2位》もったいない 実践しなきゃ 意味がない (支持率12%)

《3位》もったいない お菓子ひとつに レジ袋 (支持率11.6%)

<次点>買いたいと 思う心に 問い直す (支持率11%)

本年の特徴は、1位にほどほどに (抑制) に賛同する方が多かったことです。ダントツの得票差でした。2位と3位は僅差でした。十代の若者の支持は、3位のレジ袋に集まりました。身近な事柄が得票につながったのでしょう。惜しくも次点となった作品も購買意識の抑制でした。

作句していただいた皆様、投票くださった皆様、ありがとうございました。

最後に、MOHせんりゅうをお読みいただいた方からのつぶやきをご紹介します。

「みなさん、本当にお上手ですね」



びわ湖環境ビジネスメッセ2011にて

2011 びわ湖環境ビジネスメッセで 見つけたグッズ

いいもの
みつけた

◆「ジェリービーンズ湯たんぽ」

冬の節電は湯たんぽで。ポリエチレン製のカイワイ湯たんぽ。17cm×11cmお豆さんの形。ポーチもついてふんわりあったか。スタンプラリーで見つけました。



◆日本の技で日除け対策 「和紙の網」

節電は植物で。日差しが強いところには緑のカーテンを。植物を絡める網も植物から、ということで環境に優しい和紙で網ができました。緑色で植物に溶け込み、枯葉と一緒に自然に還元できます。

第3回いきいき地域ウォーク 「多賀まち歩き」

星空が美しく、多賀大社があり、ひこにゃん田んぼアート米で作った新酒「琵琶の神龍」、そばも美味しい多賀。一箱古本市でお値打ち本も。滋賀県立大学の近江楽座taga town projectとの交流でなにかが…。

- ◆2012年1月28日(土)
- ◆スケジュール

9:45	近江鉄道「多賀大社前駅」にて受付開始
10:00	近江鉄道「多賀大社前駅」集合
↓	
11:00	多賀大社参拝
↓	
12:30	もんぜん亭で多賀そばと糸切りもちの食べ比べ
↓	
13:30	八百秀アパート201号室で一箱古本市に参加 滋賀県立大学「近江楽座 Taga-Town-Project」メンバーとの意見交換
↓	
14:30	多賀酒造見学※
↓	
15:50	近江鉄道「多賀大社前駅」前、解散

- ◆費用：一般1000円、NPO法人環人ネット会員700円(そば代、糸切りもち代込)
- ◆主催：NPO法人環人ネット
- ◆企画：Taga-Town-Project
- ◆申込：info@kanjin.net

第2回いきいき地域ウォーク 「ヒナツクエスト」

ヴォーリズ氏の設計で知られる、旧日夏役場は新たな変身を遂げようとしています。風格ある建物を残したい、この思いが若者を動かしました。お洒落なカフェにはお客さんが絶えません。日夏を歩いてみませんか？

- ◆12月23日(金・祝) 開催
10時から12時まで受付。13時終了予定(変更するかもしれません)
- ◆参加費：500円
(小学生以下無料) ただし、小学生は安全のため保護者同伴(同伴の方も無料)
- ◆定員：30名
- ◆集合場所：日夏里館(旧日夏村役場) 彦根市日夏町2908-5

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」の 発行に当たって

代表 森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する、こころとか思いを取り戻さなければならない。死生観や人生観、先祖や子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために

「循環型社会を目指す～M・O・H通信～」を発行する。

《 M・O・H通信概要 》

■目的

- (1) 循環型社会構築に向けた意識改革
- (2) 浪費型社会通念の脱却
- (3) 人生哲学を学ぶ

■事業

- (1) 通信の発行及び出版
- (2) 講演会、勉強会、シンポジウムなどイベントの開催

■事務局

〒526-0111

滋賀県長浜市

川道町759-3

循環型社会システム研究所

TEL.0749-72-5277

FAX.0749-72-8681

e-mail:tsujimura@

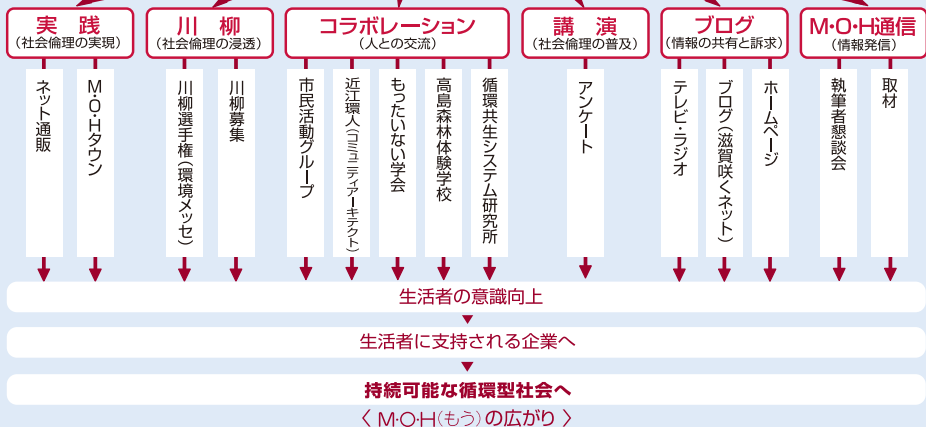
shingoshu.co.jp

代表:森 建司

担当:つじむら ことみ

[M・O・Hコンセプトシート]

M・O・H＝循環型社会をめざす言葉
(もったいない・おかげさま・ほどほどに)



読者の声

★愛する風景のネコの話、共感しました。ビジネスメッセのセミナー大変楽しい話でした。

米原市 中田 邦良

★「ろーかるでざいんのおと」（鈴木輝隆 著）の活動はM・O・H通信と似てますよアグリハイテック 北村 實彬

★「よばれやんせ湖北」お疲れ様でした。これからもM・O・Hの活動を応援します 大塚 バイン 鮎 上田 豊

★御社の社是にハッとしました。目がさめました。 大津市 上田 富士子

★「自身是嘗也」 趙雲子龍 大津市 上田 孝司

★継続は力なり 長浜市 川面 幸吉

★金子勝氏、内橋克人氏、佐高信氏は報道番組に出演する評論家の中で惚れ込んでいます 伊澄 津左次

★メッセで出逢えて、よい勉強になりました 京都 萬谷 八栄子

★赤ちゃんがカワイイ 長浜市 島田 祥子

★マアタイさん「もつたいない」を残し逝く 小西 寛信

★KIRUKIの会でテキストに33号を使わせていただきます 守山市 村上 瞳

★表紙の写真がステキ 西宮市 西本 柳枝

★気付き行動することでおかしく変革できない 現在 佐倉市 平田 和子

★みなさんガッツで乗り切りましょう 蒲生郡 山田 清広

★私の文章が掲載されてびっくりやら嬉しいやら。家族に見せて大騒ぎ 野洲市 田中 布佐恵

★いつもありがとございます 静岡県 木村 紘子

★いろんな方々の深い想いが伝わり勉強になりました 妻の家 山崎 隆

★「よばれやんせ」で美味しい食事お腹いっぱい。いっぱい遊べて楽しかった。お手伝いしたよ。バイン 鮎 ありがとう。ごちそうさまでした。

★にぎにぎの会 子どもたち

★「いいこと愉しく」。10年前からピワマスに取り組んでいます。認知度が高まっている事に感謝し、これからも精進します。 大津市 西岡 信夫

★面白くもイロイロ考えさせられました。 近江八幡市 中間 支援センターの活動もご覧ください。 <http://chuhochi-shiga-saku.net/>

★近江八幡市 石倉 亜紀

★今回始めて企業訪問をさせていただき最初に御社を訪問できて印象深く有意義であったとの声が会員から多数聞かれました。

瀬田経友会 会長 奥村 利夫

《次号予定》

2012年3月発行予定

■特集：『地域』故郷に生きる

- 対 談／長浜バイオ大学 三輪学長
 - インタビュー／「故郷を愛して」映画監督・田代 陽子
 - 寄 稿／「地域に恋して」木野環境・北井 香
 - 寄 稿／「南三陸・田の浦漁港物語」
滋賀県立大学・鶴岡 修
 - 取 材／「遊里を巡って」作家・福山 聖子
 - レポート／「滋賀の未来戦略」環人ネット・
川内 愛子
 - レポート／「手話しゅシュしゅ」びわこ耳の里
 - 連 載／通常通り
- ※ 敬称略、予告なく変更いたします

編集後記

◎花丸です。よばれやんせ湖北の実行委員会の皆さん、スタッフの皆さん。参加者の皆さん。お手間入りの地産地消交流会をありがとうございました。こだわり滋賀ネットワークの成田賀寿代スーパーバイザーが「感動した。もう死んでもいい!」と喜んでくださったことに感激しました。少しの背伸びが集まること、新たな一歩になるんだなあ……。イロイロと不手際があり、ご迷惑をおかけしましたことお詫びします。次回の参考にしたいと思えます。エッ?次回?ソウ、地産地消の伝統食はいかがかなあ? ことみ

《M・O・H通信》受付中!

あなたも「M・O・H通信」を読んでみませんか。特典として、M・O・H通信、講演会のご案内をいたします。あなたの活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。

お名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、

fax(あれば)、e-mailアドレス(あれば)、心に残った一言をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

《M・O・H通信》申込書

フリガナ		年齢	希望冊数
お名前			
住所	〒		
電話	FAX	メールアドレス	
あなたの心に残った一言、MOH川柳をお書きください。			

※記入いただいた内容については、目的以外のごことに使用または転用はいたしません。

キリトリ線

M・O・H通信 Vol.34 (通巻35号) 2011年12月20日発行 発行部数6,000部

●編集・発行/新江州(株)

循環型社会システム研究所
M・O・H通信編集局

代表 森建司

編集長 つじむら ことみ

校正協力 稲垣 重雄

取材 山崎 彩

デザイン 伊達デザイン室

写真 辻村写真事務所

印刷 ブランセル

ホームページ ブランセル

ブログ 滋賀・咲くブログ

●執筆者懇談会

内藤 正明 畑 裕子
海東 英和 堤 幸一
山田 朝夫 進 ひろこ
下西 康嗣 中村 誠
末永 國紀 笹山 千怜
花田 眞理子 結城 美枝子
弘中 史子 松崎 和弘
今関 信子 井上 昌幸
山崎 隆 辻村 耕司
三山 元暎 佐々木 洋一
加藤 みゆき 徳永 拓美
清水 安治 山口 美知子
檀上 俊雄 岡部 達平
森 孝之 豊田 一美

(順不同・敬称略)

●ご協力

滋賀県 NPO法人環人ネット
琵琶湖環境科学研究所 近江環人 地域再生学座
センター もったいない学会
循環共生社会S研究所 野洲生活学校
高島森林体験学校 EEネット
麻生里山センター 中小企業家同友会
(順不同)

●支援

新江州(株)
〒526-0111 滋賀県長浜市川道町759-3
TEL.0749-72-5277 FAX.0749-72-8681

★ブログ 滋賀・咲くブログ★
<http://moh.shiga-saku.net/>

★ホームページ★
<http://www.mohmoh.jp/>

MOH図書館

検索



※記事中で写真・本文につきましては、無断転載を禁じます。